

三重大学 教育学部



<http://www.edu.mie-u.ac.jp/>

教育学部HP携帯サイト



教育学部イメージ動画



 MIE UNIVERSITY

三重大学 教育学部

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

TEL. 059-232-1211 (代)

<http://www.edu.mie-u.ac.jp/>



教育学部へようこそ



学部長からのメッセージ
Message

教育学部長・教育学研究科長 鶴原 清志



教育学部では、たくさんの分野を用意して、教員を志望する皆さんをお待ちしております。

国語教育コース

P.06

- 国語学(日本語学)
- 国文学
- 書道
- 国語教育学
- 日本語教育



音楽教育コース

P.10

- 音楽教育学
- 作曲・音楽理論
- 器楽(ピアノ)
- 声楽



家政教育コース

P.14

- 家庭科教育
- 住居学
- 食物学
- 被服学
- 家庭経営学
- 保育学



学校教育コース 教育学専攻

P.18

- 教育哲学
- 教育方法学



社会科教育コース

P.07

- 社会科学(政治学、経済学)
- 歴史学(日本史学、東洋史学)
- 地理学(人文地理学、自然地理学)
- 哲学・倫理学(哲学)
- 社会科教育学(社会科教育)



美術教育コース

P.11

- 絵画
- 彫刻
- デザイン
- 美術理論・美術史
- 美術教育



英語教育コース

P.15

- 英語学
- 英米文学
- 英語教育
- 異文化理解



学校教育コース 教育心理学専攻

P.19

- 発達臨床心理学
- 学習心理学
- 社会心理学
- 認知発達心理学



数学教育コース

P.08

- 代数学
- 解析学
- 幾何学
- 応用数学
- 数学教育学



保健体育コース

P.12

- 保健体育科教育学分野
- 体育・スポーツ学分野
- 運動学分野
- 学校保健分野



特別支援教育コース

P.16

- 教育学
- 医学
- 心理学



理科教育コース

P.09

- 物理学
- 化学
- 生物学
- 地学
- 理科教育



技術・ものづくり教育コース

P.13

- 技術科教育法
- 生物育成
- 電気
- 機械
- 材料と加工
- 情報



幼児教育コース

P.17

- 幼児教育学
- 幼児心理学
- 保育内容研究



CONTENTS

教育学部が育てる人物像

P.02

三重大学教育学部での修学の流れ

P.05

入試情報

P.21

コース別の進路状況

P.26

教育学部の5つの強さ 教育学部の5つの特徴

P.02

コース紹介

P.06

進路状況

P.22

活躍する卒業生の声

P.28

アドミッション・ポリシー ディスロマ・ポリシー

P.04

附属教職支援センター

P.20

Questions & Answers

P.25

キャンパスマップ アクセス

P.30

教育学部が育てる人物像

21世紀、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきており、教師は教育現場で様々な問題に柔軟に対応する能力が求められています。三重大学教育学部では、地域と密接な連携を取りつつ、総合的な豊かな見識、感性、国際性、高度な専門的学識を身につけられるようにしていきます。また、様々な教育問題、教育環境の変化に適切に対応できる創造性と問題解決能力を培い、力強くリーダーシップの取れる人材をPBL（問題／課題解決型学習）等を通して養成していきます。

教育学部の5つの強さ

就職率が高い！

学校教育教員養成課程の平成30年度卒業生における教員就職率は71.3%*で、卒業生全体では、就職希望者の98%以上が就職しています。

*大学院進学者と保育士を母数から除いた率

専門教育に強い！

教科別コース制になっているため、各専門教員による質の高い指導を受けることができ、教科に関する高い専門能力を養うことができます。

教育実践力を高める！

1年次から学校現場に触れ、子ども理解を深め、学校教育活動を体験する教育実地研究に参加することによって、今後の教員に求められている教育実践力を身につけることができます。

教育実践力を高める！

教育学部に隣接する学校園と連携して、学力向上・理科実験・体育活動・食教育等に関する教育活動を支援することを通して、学生の幅広い教育力の向上に努めています。

教育実践力を高める！

学校現場に多くの外国人が通学する地域の特徴に因るため、本学部では特に英語や中国語に強い国際的な視野を持つ教員の養成をめざし、天津師範大学（中国）やオークランド大学（ニュージーランド）をはじめ多くの海外大学での語学・文化研修への参加や、交換留学の機会を提供しています。

教育学部の5つの特徴

高い教員就職率につながる手厚いサポート

教育学部では教員採用試験を受験する学生を対象に、3年次後期から教員採用試験合格のためのセミナー（教採セミナー）を開催しています。教採セミナーでは、学内模試や面接対策等を通して、筆記・論文試験、面接、模擬授業等の対策を行います。学校現場経験者を中心とした専任スタッフが、教員採用試験の日まで手厚いサポートを行い、高い教員就職率につながっています。

幅広い専門性と複数免許の取得

教育学部には、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術・ものづくり教育、家政教育、英語教育、特別支援教育、幼児教育、学校教育といった多様なコースがあります。13のコースのうちいずれかに所属して学び、今日の学校現場で各教科を指導するための専門的な知識を得ることができます。4年間を通じて幅広い専門性を身につけられますので、複数の校種や教科の教員免許状を得ることも可能です。

教育実践力を育成するカリキュラム

教科及び教職に関する専門的科目の学習以外にも、学校現場での実地的な学習と省察を通して、実践的な教育力を身につけることが求められています。そのために、1年次の必修科目である「教育実地研究基礎」を始めとして、4年間を通じた系統的な学校現場体験及び教育実習によって、教育現場に通用する教育実践力を、計画的に身につけるカリキュラムが用意されています。

地域の学校・社会との連携

教育学部の北に隣接する一身田校区の5校園（白塚幼、栗真小、白塚小、一身田小、一身田中）及び南に隣接する橋北校区の5校園（南立誠幼、北立誠小、南立誠小、西が丘小、橋北中）と連携して、各学校園の教育活動を支援するとともに、学生の教育実践力の育成をはかる取り組みが平成18年度から進められています。また平成29年には東紀州サテライト教育学舎を立ち上げ、教育支援を行うことで、地域で活躍する人材を育成しようとしています。

国際的教育環境の充実

国語教育コースでは、日本語教育に関する科目も開講し、日本語を母語としない人たちへの日本語教育の基礎力を持った人材を育成します。また、本学部では、海外の大学と提携して国際的な視野をもつ教員養成に力を入れています。天津師範大学やオークランド大学の研修プログラムには、毎年多くの学生が参加しています。さらに遠隔通信システムを利用した異文化コミュニケーション能力の育成など、様々な実践的な取組を行っています。



生きた教育を経験する教育実習

教育学部には、教育・研究・実践の補完施設として、4つの附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）と、附属教職支援センターがあります。3、4年次の教育実習は、主として4つの附属学校園で行われます。教育実習は、授業への取り組み方・教師観・保護者観などの、それまでの学習成果について、再検討や反省をする貴重な体験です。そして、生きた教育の場で得られる多くの経験は、「教師になる」ということを再認識させ、勉学へのモチベーションを高める機会でもあります。





国語教育コース

募集人員 初等教育選修(前期11名、後期3名)、中等教育選修(前期7名、後期2名)

ことばを知ることは、世界を知ること 子どものことばと心を育む教育を追究します

私たちは、ことばで考え、ことばで知り、ことばで感じ、ことばで発信します。国語科は、ことばを学び、ことばを探究する教科です。国語教育コースでは、教員としてそれを実現するための知見が得られます。

学びは、これまでもこれからもことばと切り離せません。幼児期から今までの学びをふりかえり、ことばが果たしてきた役割を考えましょう。あすの国語教育の扉をひらくのは、あなたです。

国語教育コースでは、国語学・国文学(近現代文学および古典文学)・国語教育学・書道について学びます。2016年度からは、日本語を母語としない人を対象とした日本語教育も学べます。小学校一種・二種、中学校一種・二種(国語)、高等学校一種(国語)免許を得られます。必要な単位を取得すれば、幼稚園一種・学校図書館司書教諭の免許を取ることできます。

国語学(日本語学)

【日本語の文法、語彙、表記、音声、アクセント、方言】

「元気に働く」と「元気で働く」の違いは?「隣の客は良く柿食う客だ」等の早口ことばは、どうして言いにくいのか?日常的な具体例を挙げつつ、言語分析の方法を身につけ、現代日本語の特徴について考察を深めます。

国語教育学

子どもと教員と教材の一期一会の切り結びが、わたしたちの学びの場です。国語科とは何をどのように学ぶ教科なのか、小学校、中学校、高校の授業を実際に見て考えます。子どもも教員も成長できる授業をめざします。

日本語教育

日本語教育の基礎知識を学び、日本語教授法や言語習得、日本の文化・社会や異文化への理解を深めます。

国文学

古典文学については、古典文学作品を読み、その当時の人々の生活や社会の状況を合わせ考えて、作品の独創性を考察します。時代は主に平安・鎌倉時代の作品を扱います。古代・中世の日本文化を知ることは、もの見方も広がります。

また、近代文学については、明治から現代までの文学作品を対象として、作品が書かれた社会的背景も含めてさまざまな角度から分析・考察します。時代とともに変化する教科書収録作品に対応するため、教材研究の力をつけます。

書道

毛筆実技では、楷書や行書などの基本的な運筆を学びます(硬筆も取り上げます)。古典臨書も行いながら、書道の歴史文化にも触れ、鑑賞力も養います。書道を通して、文字文化のおもしろさを感じ取っていきましょう。



書道の授業



小学校での授業



国語科シンポジウム



小学校多文化クラブ活動の準備



社会科教育コース

募集人員 初等教育選修(前期8名、後期2名)、中等教育選修(前期5名、後期2名)

社会を見つめる知と技をみがき、社会科を専門とする教員として必要な「教科力」を身に付ける

社会科(地理歴史科・公民科)教育を専門とする教員に必要な能力である教科力を身に付けるため、社会諸科学を中心とした学問を専門的に研究し、教育実践にいかすために5つの専攻に所属します。

社会科教育コースには、中学・高校の頃から社会科が好きだった学生が集まっています。教員としての専門性を高めるため、学生は5つの専攻に所属し、学問を背景とした教育・研究活動に日々励むことになります。

一年次は共通して社会科共通のオリエンテーション科目を、二年次から本格的に専攻を中心とする専門教育科目を、三年次は社会科授業についての教科教育法を履修します。また、卒業論文のテーマを選定し、四年次に卒業論文の作成に取り組みます。

副免として主免以外の小・中・高、他教科の中・高免許などを取得することができます。具体的には、小学校教諭一種・二種、中学校教諭一種・二種(社会科・他教科)、高等学校教諭一種(地理歴史科・公民科・他教科)、幼稚園教諭一種・二種などの取得が可能です。

社会科学(政治学、経済学)

新聞やニュースで報道される現代社会のさまざまな問題を政治学的、経済学的な視点から取りあげ、それらを考察する能力とそれらを教育の現場で活用する技術の習得を目指します。

歴史学(日本史学、東洋史学)

歴史の研究を通して、社会の成り立ち・仕組みについて学びます。日本史・東洋史の各ゼミでは、史料や最新の研究成果を読むことで、教科書記述の理解を深め、よりよい授業ができる実践力の育成を目指します。

地理学(人文地理学、自然地理学)

国内外の地域を対象に、人間と自然にかかわる幅広い領域について研究します。フィールドワークや様々な実験を通じ、地理学をはじめ環境・防災教育も視野に入れた地理教育の指導を行います。

哲学・倫理学(哲学)

哲学・倫理学の基本的な諸概念や諸問題を取り上げ、検討することを通じて、社会の諸事象を多角的な観点から捉え、批判的に分析するために必要な思考力と表現力を養います。

社会科教育学(社会科教育)

社会科の学校現場の教育実践を意識した調査・研究を行います。ゼミでは教育実習の教材研究や社会科教育の理論や優れた実践研究を取り上げ、教員と学生で分析・検討します。



プレゼンテーション力を育成する授業



ゼミ卒論発表会



ゼミ研修旅行



社会科教職セミナー

教員の声



守田 庸一 教授
もりた よういち
【担当科目】
国語教材研究、国語科教育法
国語教育ゼミナール など
【専門分野】
国語教育学

みなさんは、どんな国語の授業を覚えていますか?教科書の文章を読んだこと、文法を勉強したこと、漢字の読み書きを教わったこと…。そうした授業をするために、先生には、日本語とその表現についての深く広い知識が求められます。また、一人ひとりの子どもには様々な背景があることを理解し、個の言語能力を把握した上で、状況に応じて多様な指導方法を実践できることも大切です。国語教育コースでは、日本語にかかわる専門的な内容を学習するとともに、国語の授業のありかたを考えたり、実際の授業を参観したり行なったりすることなどを通じて、国語科を担う教員に必要な知識と力量を得られます。

学生の声



成瀬 由菜 さん
なるせ ゆうな

国語と聞いたら、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。筆者の主張をまとめたり、登場人物の心情を読み取ったり、文法や方言、敬語、文字の書き方を学んだり、さまざまあると思います。国語教育コースでは、日本語学、国語教育学、書道、古典文学、近代文学、日本語教育学などのさまざまな分野の知識にふれながら、日々国語について学んでいます。これまで学んできた国語の内容について、素敵な先生方の授業を聞き、考え、個性ある仲間たちと話し合いをする中で、より専門的に、また、多面的に学びを深めることができます。また、コース内での仲の良さも国語教育コースの魅力です。同期間はもちろん、先輩や後輩とも、さまざまなイベントを通じて仲を深めることができます。自分が将来なりたい目標に向かって、たくさんの仲間と共に、学びを深めていける、とても楽しいコースです。

教員の声



宮岡 邦任 教授
みやおかくにひで
【担当科目】
自然地理学概論、水文学概論、
地理学概論(分担)、三重県南部
地域の初等教育(分担)他
【専門分野】
自然地理学、水文学

社会の状況は日々変化しており、その変化は非常に早く複雑になっています。私たちは激動の社会を生き抜くために、社会の流れに柔軟に適応し強靱な社会を構築していかななくてはなりません。学校教育に携わる人たちは、社会の変化を敏感に捉え、教育活動に反映させてゆく必要があります。社会科教育コースでは、従来の文系分野にありがちな人文・社会科学の内容だけでなく、インバウンドを考えた観光や政策構築などの現代的な課題、社会に通用する文書作成や人との関わり方といった基本的事項、自然災害をはじめとした危機管理や環境といった自然科学にいたるまで、多岐にわたるカリキュラムを用意しています。これらのカリキュラムを通じ、現代社会を力強く生き抜き、教育界に適應できる、社会科や学校現場を担う力量を持った人材を育成しています。

学生の声



森木 馨五 さん
もりきけいご

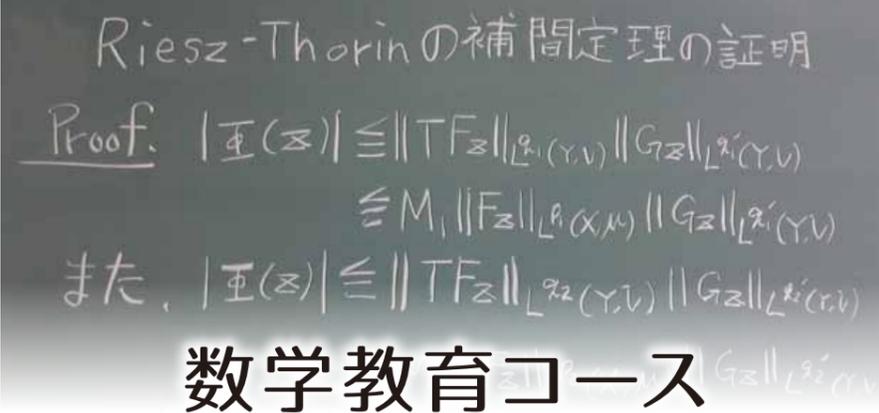
社会科教育コースは、9つのゼミがあります。東洋史・日本史・哲学・倫理・自然地理・人文地理・経済・政治・社会科教育です。2年時以降はそのいずれかに所属し、それぞれの先生の講義を受けられます。個性豊かな先生方の授業は、より専門的な内容が学べ、本当におもしろいです。さらに、社会科教育コースはコース内での繋がりがあり、ゼミ旅行や新入生歓迎会、野外実習などの他コースにはない催し物がある学科です。私は高校で地理を学び、地理が好きであったため自然地理ゼミに入りました。ゼミでは、現地に赴いて調査したり、海外旅行に行ったりとアクティブな活動が多く、専門的な分野だけでなく、コミュニケーション力なども身につけられました。

将来のフィールド

卒業生の多くが、三重県・愛知県・名古屋市の小学校・中学校・高校の教員として活躍しています。また、公務員を目指したり企業に勤めたりする人や、大学院に進学してさらに学びを深める人もいます。

将来のフィールド

教員志望が最も多いです。社会科で学んだことをいかして公務員や一般企業で働く人もいます。



数学教育コース

募集人員 初等教育選修(前期9名、後期2名)、中等教育選修(前期8名、後期2名)



理科教育コース

募集人員 初等教育選修(前期10名)、中等教育選修(前期9名)

明るく元気に、そして楽しく数学を勉強したい小中高の教員志望の人に向いている専攻です

4年間をかけて数学を系統的に学びます。また近隣の小中学校で児童や生徒とふれあったり、現職の先生のお話を聴いたりして、教師としての実践的な指導方法も学びます。

少人数ならではの縦と横のつながりが強く、にぎやかな雰囲気の特徴です。成績評価の厳しい先生が多く、試験前に学生は猛勉強をします。宿題の量も多いですが、分からない問題があってもみんなで助け合い、先生も親切に面倒を見てくれますから、数学の実力を伸ばせます。

ここで数学を勉強しませんか。教員採用試験の合格率も良好です。

代数学

方程式の話は高校までで終了、ではない。これは終わりのない物語です。この物語を読み解く過程で「群」や「ベクトル空間」などの重要性がわかってきました。こういうものも含めて方程式とその周辺を研究するのが代数という分野です。

解析学

自然現象を科学的に理解しようとしたとき、高度な微積分の知識が必要となります。このため、微積分学を多変数に拡張したのも、変数の範囲を複素数に広げたもの、より一般的な関数も扱える積分論などを学生が学んでいます。

幾何学

幾何という皆さんは直線、図形、三角形、丸、楕円などを思い浮かべるのではないのでしょうか。黒板の上では、私たちが普通に考えるものですね。では、地球上、つまり曲った面の上での直線、三角形、丸とは何なのでしょう。一緒に考えてみませんか。

応用数学

確率論・統計学では、高校で学んだ確率の考え方を深化させた公理的確率論と、その応用であるデータ解析・数理統計学を学びます。コンピュータ科目では、プログラミングの基礎から応用まで学び、論理的思考力や問題解決力を高めます。

数学教育学

学校現場における算数・数学教育の現状と課題を見つめ、教材の開発や指導原理の考察、指導事例の検討、評価のあり方など、算数・数学教育の「目的・内容・方法」を理論的・実践的に探究します。

数学教育専攻の学生行事

4月	新入生歓迎会	2月	スキー合宿、卒論発表会、追い出しコンパ
夏休み	キャンパ	3月	謝恩会
11月	大学祭出店	その他	誕生日会(随時)、期旅行(同期生による旅行)、卒業旅行 など
12月	忘年会		



さあ、一緒に楽しもう！教師になろう！



先生とゼミ生たち



「数学科教育法」のノートです。



教師を目指す皆さんの入学を待っています。

教員の声



田中 伸明 教授
たなか のぶあき
【担当科目】
初等教育法(算数)、
数学科教育法Ⅱ など
【専門分野】
数学教育学

「マセマティクス(数学)」という言葉は、古代ギリシア語の「学ばれるべきもの」を示す「マテマタ」に由来します。数学は、それ自体が現実を超越した学問であると同時に、現実の問題を解決するための有効で不可欠な手段でもあります。「数学を学ぶ目的が分からない」という人がいますが、突き詰めて考えると、それは「マテマタ」の語源が示す通り、知をもった人類が幸せに生きるためには「学ぶべきもの」なのだ、私は考えます。

しかし、何のために数学を学ぶのか。その問いに対する答えは、百人百様、それでいいと思います。広大な自由な宇宙が、数学には広がっているからです。私たちは、算数・数学科の教員を目指す「数学大好き人間」の集まりです。数学の楽しさを、学校でこどもたちと共有したい!! そんな志を持った仲間、さあ～集まれ!

学生の声



西尾 七海 さん
にしお ななみ

数学教育コースでは、教師になるための授業だけでなく大学数学の授業もしっかりとあります。高校までの数学とのギャップに頭を抱えることも少なくないですが、心配はいりません。先生方はやさしく親切に教えてくれますし、縦の繋がりも強いので先輩方に気軽に質問できるからです。また仲間と勉強してテストを乗り越えると、学びもより深まり嬉しいものです。小中学校での授業補助も計二年行くと、実際に教育現場での経験や気づきも多く得られますよ。皆さんも数学教育コースと一緒に学びませんか?

教員の声



平山 大輔 准教授
ひらやま だいすけ
【担当科目】
基礎生物学A、生物学講義、
生物学実験 など
【専門分野】
植物生態学、森林科学、
生物教育

皆さんは高校で物理、化学、生物、地学のうちのいくつかを学んでいると思いますが、小中学校の理科では4分野すべてを教える必要があります。そのため、本コースでは理科4分野と理科教育学に関する講義・実験を通じて理科全般の基礎力を身につけた上で、専門的な分野の深い知識と指導力を身につけることができるようなカリキュラムとなっています。また、子ども向けの科学教室や教育実習を通して、子どもに理科を教えるための技能を身につけることができます。本コースでは自然科学に興味があり、子どもたちに理科の不思議さや面白さを伝えたいという希望を持つ学生を求めています。

学生の声



加藤 楽都 さん
かとう がくと

理科教育コースでは普通の授業に加えて、物理・化学・生物・地学の4分野において様々な実験をしたり、合宿や実習に行ったりします。例えば夏の天体実習では、他県に足を運び数日間泊まり込みで他大学の方たちと協力して星を観察するという初めてづくしの貴重な体験をすることができます。

また、夏には「子ども科学教室」、秋には「科学の祭典」といった小学生を対象としたイベントがあり、学生が主体となって実験を行い、子どもたちに理科のおもしろさや楽しさを伝えていくという実践的な経験もできます。特に子ども科学教室では、学生が自分たちでテーマを決め授業計画をいちから考えて実践するので、授業づくりの良さ練習の場となります。皆さんもぜひ理科教育コースで私たちと一緒にたくさんのお話を聞いて学び、教師を目指しませんか?



化学実験教室(子ども科学教室)



力学の実験(物理学講義1)



地層の野外観察



科学の祭典

将来のフィールド

過去3年間の卒業生61名のうち、28名が在学中に公立学校教員採用試験に合格(小13、中13、高2)。民間企業9名、大学院進学10名などです。

将来のフィールド

最近3年間の卒業生49名のうち、38名が教員(小学校21名、中学校14名、高校1名、私立学校1名、特別支援学校1名)となり、3名が大学院に進学しています。



音楽教育コース

募集人員 初等教育選修(前期4名、後期3名)、中等教育選修(前期3名)

音楽の本当の面白さを子ども達に伝えることのできる教師になるために

深く広い専門的知識と、理性に根ざした豊かな感性、そして科学的視点を重視した質の高い指導技術を備えた教員の養成を目指しています。また、生涯学習を支援できる柔軟な思考・行動力のある人材の育成を図ります。

ピアノをはじめとする器楽の演奏法、声楽における発声及び歌唱法、それらを基盤とした合奏・合唱及び指揮法と、音楽理論とその発展にある作曲法を体系的に修めることによって、音楽の実技系各分野における専門性を高めます。また、日本音楽の歴史や演奏法、音楽史などを学ぶことにより、様々な価値観や美学に触れ、個性的で柔軟な発想を育みます。さらに、講義やゼミナールで音楽教育学の理論や授業の構成法を学び、授業観察や模擬授業を通して実践的な指導力を身につけます。

小学校一種免許状、中学校一種免許状(音楽)、高校一種免許状(音楽)を取得することができます。努力次第では、他校種・他教科の免許状の取得も可能です。



ソルフェージュ



日本音楽(三味線の実習)



小学校専門音楽(弾き歌いの指導)



学生控室の様子

音楽教育学

教育に関する理論を基盤として、教育課程の構造、授業の構成、教材に関する解釈等について学びます。また、音楽の各分野に関する基礎的知識および技能に基づき、総合的な実践力を身につけます。

作曲・音楽理論

音楽を指導する立場にある者は、音楽の構造・成り立ちについて知っていなければなりません。作品に接するにあたり、どのように考えたらよいかを基本から取り組むために、「和声法」「作曲法」等の授業があります。

器楽

ピアノに触れることで音楽と親しみ、西洋音楽のバロックから近・現代までの作品の演奏研究を行うとともに、音楽を指導するスキルを身に付けます。また、演奏表現することの喜びを通して、互いに持てる力を育て、これからの音楽教育に求められるものについて、ともに学びます。

声楽

基礎発声として裏声と表声の分離・強化と融合および発音との協調運動による声の作りの理論と実践を、そして段階に合わせた様々な歌曲や教科書に掲載されている歌などを、原則グループ形式の授業で学生相互が学び合います。

教員の声



兼重 直文 特任教授
かねしげ なおふみ
【担当科目】
器楽研究、
器楽ゼミナール、指揮法、
器楽(伴奏法・合奏)ほか
【専門分野】
器楽(ピアノ)

音楽教育コースのある音楽棟は「音楽に溢れる館」、ここで学生たちは日々音楽と向き合い、教師になることを夢見て充実した学生生活を送っています。ふと「音楽とは何か」と考える時、人と音楽と社会環境の密接な関わりの中で活かされる人間の叡智を結集した創造物、これを通して私たち教員も「音楽に内在する力」について学生たちと語り合いながら、学校教育に求められる「音楽の存在する意義」を追い続けています。音楽棟は全室冷暖房を完備、練習室も48室、そこにはアップライトピアノを37台とグランドピアノを6台、その他、学校現場で対応できる多種多様な音楽教材楽器等も揃えています。皆さんが抱く音楽を礎とした「教師への夢」を共に追い求めていきましょう。

学生の声



辻出 美耶子 さん
つじで みやこ

音楽教育コースでは、ピアノや声楽といった実技科目はもちろん、音楽教育・音楽理論などを体系的に学ぶことで、専門性を高めていきます。学びを深める中で、音楽に対する新たな発見をしたり、自分の興味を広げたりすることができます。また、「音楽が好き」という同じ思いを持つ同期、先輩・後輩と切磋琢磨しあえる環境は、音楽教育コースの大きな魅力の一つです。各々個性は様々ですが、時に支えあい、時にライバルとなる素晴らしい仲間と大学生活を過ごすことができます。コース全体でサポートに取り組む機会もあり、お互い刺激しあいながら日々高めあっています。音楽が好き、音楽のおもしろさを伝えたい、という思いがある方、ぜひ私たちと一緒に充実した大学生活を過ごしませんか？



美術教育コース

募集人員 初等教育選修(前期6名)、中等教育選修(前期3名)

美術の力と魅力! それを知りそれを活かす教育の途がここにあります

美術の制作と理論の追究、美術教育の実践と理論の探究、というそれぞれの力量を高め統合した専門的能力を身につけるとともに、学校や社会教育現場で求められる高度な実践力を備えた教育者を養成します。

教育学部の特色を生かして制作と理論の両方の力量を獲得できるのが特色です。1年次から絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論の各分野の専門的な制作と理論が学べます。3年次からは「副論文・卒業制作」が「副制作・卒業論文」のいずれかのコースを選択し、専門的な研究を行います。

「小学校教諭一種」または「中学校教諭(美術)一種」の教員免許を取得します。その他高校(美術)免許、学芸員資格、幼稚園・中学校教諭(他教科)は選択で取得できます。

絵画

デッサン、透明水彩による着色、油彩による西洋古典絵画技法、アクリルエマルジョンを用いた混合技法など様々な表現を体験し、多種多様な画材と素材に臨機応変に対応できる自由な発想力を養い、各自の表現のバリエーションを広げていきます。

彫刻

個々の学生の資質に合わせた幅広い分野の立体造形の授業を行っています。実技制作と平行してスライドレクチャーを行い、表現についての知識を深め、時代や歴史的な観点をふまえたうえで自己表現を目指しています。

デザイン

基礎造形のうち平面及び立体の構成を中心にした課題や、CGを使った実践的なデザインワークから、デザインに必要な理論、思考法、技法、色彩学を学び、デザインとは何か、作品制作を通して考察していきます。

美術理論・美術史

美術教育で重視されつつある「鑑賞」という視点から、美術の理念・概念・歴史などを学修します。それによって、美術を生み出すものが、単に感性ではなく、様式の変化や時代精神、民族性、あるいは個人の才能などさまざまな要因によることを学びます。

美術教育

美術教育のありようには決まった答えはありません。それは、子どもと教師が共に創造していくのです。この高度な実践的指導力を、講義や演習による理論研究と、実地や実習による実践研究との結合により獲得していきます。



絵画の授業から



授業風景: デザイン



彫刻教室制作風景



美術史授業風景

教員の声



岡田 博明 教授
おかだ ひろあき
【担当科目】
デザイン
色彩学、製図 など
【専門分野】
デザイン

美術教育コースでは、美術と美術教育を学ぶための充実したカリキュラムが組まれています。1年次は美術館での子供の活動の企画・実施、2年次は美術展の企画・運営、3年次は作品制作または理論による副研究、4年次は卒業研究と卒業制作展開催と美術・美術教育の様々な経験から、実践力と理論を発揮できる力を身につけます。それを支えるのが1年次から始まる美術の専門分野(絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史・美術理論)の専門的な学習と教科教育法の授業と教育実習等の美術教育の学びであることは言うまでもありません。学年を超えた繋がりや、学生と教員の懇切な関わりも魅力の一つです。

学生の声



瀬古 彩也香 さん
せこ さやか

このコースでは、絵画、彫刻、デザイン、工芸といった専門授業を1年次から学び、美術史の授業や、実際に美術品にふれて学ぶ研修を通して美術とはなにか、美術を教えるとはどういうことなのかを考えながら学ぶことができます。さらに美術館でのワークショップや、展覧会の運営などの体験をすることができます。また、少人数のコースのため先輩後輩のつながりが深く、先生方からも丁寧な指導を受けられます。ぜひ、このような幅広い経験ができる美術教育コースと一緒に学んでみませんか？

将来のフィールド

小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭だけでなく、進学、研究員等、専門領域で研究活動を推進する卒業生もいます。また、公務員や企業に就職する人もいます。

将来のフィールド

卒業生の多くは、小学校・中学校(美術)・高等学校(美術)の教員になります。最近では大学院に進学したり、デザイン関係の企業に就職する学生もいます。



保健体育コース

募集人員 初等教育選修(前期6名、後期3名)、中等教育選修(前期5名、後期3名)

健康で運動好きな子どもを育てるために、保健体育に関する様々な分野の学習をします

運動の楽しさやおもしろさ、精一杯体を動かすことの気持ちよさを味わえる、健康や体に関する正しい知識と実践力を持つ子ども。本コースではそのような児童、生徒を育てる教員の養成を目指しています。

本コースでは保健体育に関する専門的な知識と実技能力を基礎として、高い授業実践力を養うための学習をします。専門的な知識を高める学問分野には保健体育科教育学、体育・スポーツ学、運動学、学校保健の各分野があります。取得可能な免許は小学校教諭、中学校教諭(保健体育)、高等学校教諭(保健体育)等です。また、(公)日本体育協会公認スポーツ指導者養成制度の資格取得に必要な講習および試験の一部(共通科目Ⅰ+Ⅱ)が免除されます。

保健体育科教育学分野

学校教育における体育・保健体育の授業をどのようにデザインし、展開し、省察していくかということについて学びます。教材研究、授業観察、授業研究(模擬授業)を通して、保健体育科教育の目的、内容、方法等を学び、体育担当教員としての専門的資質と実践的指導力を培っていきます。

運動学分野

体や運動を科学する方法について学びます。体の機能や仕組みを理解し、様々な身体運動により体がどのように変化するか、スポーツの技術を習得する方法や指導法、運動のメカニズムを解明する方法や、各種スポーツの基礎となる多様なトレーニングの科学的方法等について学びます。

体育・スポーツ学分野

体育やスポーツについて心理・社会・歴史・哲学などの視点から追求していきます。例えば実力を発揮する方法、人間関係や集団・組織のマネジメントのあり方や指導・支援方法、スポーツ振興政策の仕組みや現状、体育やスポーツとは何か、体育やスポーツの変遷等について紐解きます。

学校保健分野

子どもから高齢者までを対象にした健康づくりを学びます。例えば児童の運動量が減少している問題を理解し、保健教育について学びます。成人の生活習慣病と運動の関連性を理解し、疾病予防について考えます。高齢者の体力低下問題に対する国や自治体の対策について知識を得ます。



学校現場の体育教師との「ラート運動」実技研修会



野外運動の授業
－火の神とキャンプファイヤー－



授業研究会への参加
－グループディスカッションの発表－



体育実技「器械運動」の授業で倒立の練習

教員の声



後藤 洋子 教授
ごとう ようこ
【担当科目】
体操、ダンス
小学校専門体育 など
【専門分野】
体操の指導方法論

本コースの新生は、保健体育の専門家として教員を目指す人達が多数を占めていますが、実際には小学校の教員になる人が多いようです。小学校において体育の専門性を持った教員は、子どもの発育・発達に即した体力、運動能力の向上という観点からも重要な存在だと考えます。また、中学、高校の体育教員を目指す場合においても、保健体育の専門家として良い体育の授業ができることが不可欠です。どの校種の教員を目指すにしても、本学での様々な授業、実習、実践活動を通して専門的な理論に裏付けられた実技力、実践力を養いましょう。更に高度な専門性を身につけるために大学院に進学する道も開かれています。

学生の声



川口 奈緒 さん
かわぐち なお

保健体育コースでは、高校までと違う専門的な実技の授業はもちろんのこと、健康や運動について様々な分野からデータや資料を使って考える授業もあります。それぞれの分野で基本的なことから発展的なことまで幅広く学ぶことができ、その中から自分の興味があることを見つけて探求することができます。また、駅伝大会やバレーボール大会などコース内でのスポーツイベントもあり、優しい先輩方と後輩との縦のつながりが強いことは保健体育コースの特徴です。さらに授業や実習で切磋琢磨し合う同期と過ごす大学生活はかけがえのないものです。体を動かすことが好きというあなた！是非私たちと一緒に明るく元気な大学生活を送りましょう。



技術・ものづくり教育コース

募集人員 初等教育選修(前期5名)、中等教育選修(前期3名、推薦2名)

ものづくりの楽しさと、技術の素晴らしさを伝えることのできる教師を目指して

将来、技術立国日本を支える子どもたちに、ものづくりの楽しさと、技術の素晴らしさを伝えることのできる教師を目指し、技術教育を支える学問の理論と技能を総合的に学習します。

技術教育は、技術立国日本を支えるだけでなく、子どもたちの工夫創造の能力や実践的態度の育成など、人間形成の上でも大きな役割を果たしています。小学校におけるものづくりを含め、このような技術教育について学ぶのが技術・ものづくり教育コースです。本コースでは2年次より技術教育、電気工学、機械工学の3つの研究室のいずれかに所属して専門性を高めます。

生活に密着する科学としての技術・ものづくり教育を、その理論・実践両面からのアプローチを通して深めていくとともに、それを支える材料加工、機械、電気、生物育成、情報に関する専門的な教育・研究を探究していきます。

技術科教育法

「技術」や「ものづくり」を対象とした教育における、教材や学習指導法、教授技術について実践的に学修します。

材料と加工

木材、金属、プラスチックと、目的により使用する材料も、加工法も異なります。また、材料の再資源化や廃棄物の発生抑制など、自然環境の保全等にも関係しています。このような材料と加工に関する技術について学修します。

機械

我々の身の回りにある工業製品全ての設計・製造・稼働・メンテナンスに関する事項、またそれに必要となる基礎理論と応用技術について学修します。

電気

電気回路、電磁気の基礎をまず押さえた上で、講義と実験実習を通じて発電から最終的な利用までのエネルギー変換、身近なものから様々な産業で工夫・応用されている電気に関わる事項について学修します。

生物育成

食料、バイオエタノールなどの燃料、木材の生産、花壇や緑地等の生活環境の整備など、生物育成が多くの役割をもつことについて実習を通して学びます。

情報

情報に関する技術の進展が、社会生活や家庭生活を大きく変化させ、多くの産業を支えています。このような内容を指導できるよう、理論と実践を通じて学修します。



研究授業
「いろいろな形の強度を調べよう」



ものづくりの授業
「クリスマスのランプシェードをつくらう」



授業実践
「多様な視点で製品を選ぼう」



プログラミング・ロボット体験教室

教員の声



中西 康雅 准教授
なかにし やすまさ
【担当科目】
金属加工学概論、
木材工学概論、
金属加工実習及び製図など
【専門分野】
材料工学、技術科教育

携帯電話などの目に見える製品だけでなく、材料技術や情報技術など、技術は私たちの生活を豊かにします。その反面、環境問題や倫理面での課題を生むこともあります。このように、技術が私たちの生活と深く関わるからこそ、技術・ものづくり教育コースでは、人と技術の在り方について専門的に学び、技術に関する教育はどうあるべきかを考え創造します。「どうなっているんだろう」という疑問、「こんなものがあつたらいいな」という願望、そういった素朴な想いから技術に関する学びが始まります。このようにして始まる技術に関する学びは、教育活動はもちろん、皆さんの身の回りの製品や技術として結実し、社会に貢献しています。技術教育について一緒に学びませんか。

学生の声



賀野 碧羽 さん
ほの あお

このコースの魅力は、身の回りに溢れている身近な技術から専門的な技術まで幅広く学ぶことができる点です。授業では先生方の丁寧な指導を受けながら、座学だけでなく、スピーカーやアンプを製作する実習、電気回路での実験などの実践的な授業を通して、教員になるために必要な力をつける事ができます。さらに、子供たちと関わる機会も多く、教育について楽しく学ぶ事ができます。また、1学年あたりの人数が少ないことも特徴の一つです。そのため先生方とも距離が近く、疑問に思ったことは気軽に質問する事ができます。その他にも、学年や性別に関係なく(男女比は約2:1)みんなで盛り上げられるキャンプや温泉旅行などの楽しいイベントもたくさんあります。「教師になる」という夢、充実した学校生活を送りながら、一緒に技術・ものづくり教育コースで叶えましょう！

将来のフィールド

三重県や近隣の公立小、中学校(講師を含む)の教員となる人が多数を占めますが、公務員になる人や大学院に進学する人もいます。また近年、三重大学の職員として採用される人も見られます。

将来のフィールド

進学(本学/他大学大学院、教育学研究科以外を含む)、教員(幼稚園、小学校、中学校技術、高等学校工業、特別支援学校、工業高等専門学校、大学)、公務員、企業(製造業、教育関連、情報関連)



家政教育コース

募集人員 初等教育選修(前期5名、推薦3名)、中等教育選修(前期5名)

広い視野から人間の生活と環境を探求できる教員になるために

家政教育コースでは、人間形成にとって必要な生活の問題を、日々の家庭生活や地域生活に着目して、広範な視点と分野から、理論的・実践的に研究しつつ、それらを家庭科に生かし、新しい時代を担う家庭科教員になることをめざして学びます。

家政教育コースは、家庭科教育、家庭経営学、被服学、食物学、住居学、保育学の6つの領域からなり、文系・理系どちらの分野の科目も必要なコースです。取得できる免許は小学校教員免許、中学校および高等学校の家庭科教員免許です。そのほかにも、希望すれば学芸員や司書教諭等の資格も取れます。



調理実習の様子



被服構成学の授業の様子



食物学実験の授業の様子



家庭科教育

家庭科教育の理論と専門領域の知識を統合し、よりよい授業実践ができる力を育成します。主な授業科目は、家庭科教育法・家庭教材研究です。

家庭経営学

システムとしての生活が安定するための知識を学び、豊かで創造的な生活について考えます。主な授業科目は、生活経営論・家庭経済論・家族関係論・家政学原論・消費者教育論です。

被服学

衣生活に関する知識(デザイン・素材・設計・管理・衛生など)を学び、実生活に役立つ教育へ導くことを考えます。主な授業科目は、被服学概論・被服構成学・被服実習・衣生活科学・被服学実験です。

食物学

栄養・食品・調理に関する知識を学び、豊かな食生活について考えます。主な授業科目は、栄養学概論・食品学・食品材料学・調理科学・食生活論・調理実習・食物学実験です。

住居学

住空間・住生活に関する知識を学び、豊かな住生活について考えます。主な授業科目は、住居学概論・住生活論・住居学実習です。

保育学

子どもに対する基本的な理解と関わり方を学び、家庭や社会における子育てについて考えます。主な授業科目は、保育学概論・家庭看護学です。

教員の声



磯部 由香 教授
いそべ ゆか
【担当科目】
食品学、栄養学、食物学実験、
食品材料学
【専門分野】
食物学

家庭科では、家庭経営、衣食住、保育等の領域の学習を通して、一人一人の人間が自己実現をしながらよりよい生活や人生を送ることについて学びます。また生活を時間的・空間的に幅広く捉え、少子高齢化、環境問題、消費者問題などの社会的課題を視野に入れながら、生活と環境についても広い視野から学びます。そして、実習や実験などの体験的に学ぶ授業、講義や演習などの理論的に深く探求する授業を通して、学んだことを実生活で応用できる実践力や、生活環境を変えることのできる力を持った子どもを育成できるような実力を備えた家庭科教師を育成します。家庭科の深い学びが、きっとあなたの生活や人生も変えてくれることと思います。

学生の声



鈴木 ひかり さん
すずき ひかり

家政教育コースでは、私たちの生活に直結する衣食住を中心に家庭科について学びます。座学だけでなく、実習・演習などの実践型の授業でより深い学びを得ることが出来るので、家庭科教員に必要とされる知識や実践的能力をしっかり身に付けることができます。また、大学に子どもを招いて料理をするイベントなどがあり、子どもと触れ合える機会があるのでとてもためになります。一学年が少人数のためみんな仲が良く、充実した学校生活を送ることができます。また、家政教育コース全体で行う活動もあるので他学年の人とも仲良くなれます。家庭科に興味がある方、充実した大学生活を送りたい方はぜひ家政教育コースに入って、私たちと一緒に楽しく学びましょう！

将来のフィールド

卒業後はほとんどの学生が小学校や中学校家庭科の教員となりますが、大学院へ進学する学生や公務員または一般企業へ就職する学生もいます。



英語教育コース

募集人員 初等教育選修(前期6名)、中等教育選修(前期7名)

英語教育コースは国際化にふさわしい資質と能力を持った英語教員を養成するコースです

英語教育コースでは、英語の実践的能力を身につけるとともに、英語の歴史的・社会的背景、英米の文学や文化、英語教育法を総合的に学び、確かな英語力、言語感覚、国際感覚の習得を目的としています。

英語教育コースのカリキュラムは英語学・英米文学・英語教育・異文化理解・英語コミュニケーションの分野からなっており、さまざまな側面から英語に親しんでいきます。英語コミュニケーションの分野では英語会話や英作文など実用英語のスキルを習得し、英語学、英米文学、英語教育、異文化理解などの専門分野では、講義と演習を通して英語教員に求められる専門的知識を身につけていきます。インターネットを用いて米国の大学との遠隔授業も行っています。

英語学

英語学の分野では、英語の仕組みや働きを事例の観察・分析を通して多角的に研究し、その成果を中学校・高等学校における指導に活かすことをめざします。また、英語が実際に使われている状況、英語が今日「国際共通語」と呼ばれるに至った経緯などを、さまざまな文献資料を通して学んでいきます。

英語教育

英語教育の分野では、言語習得理論から小学校の外国語活動や中学校・高校における具体的な英語指導法まで、英語教育全般にかかわる事項を学びます。また、教案作成・模擬授業や学校訪問を通して授業実践力も育みます。

英米文学

英米文学の分野では、英米の有名な詩や小説や劇などの文学作品を原書で読み、英米文学を体験します。具体的な作品読解を通して英米文学に親しむだけでなく、その背景となっている英米の文化や世界観にも触れ、同時に文学テクニクの分析方法についても理解を深めます。

異文化理解

異文化理解の分野では、異文化コミュニケーション全般の基礎知識を習得すると共に、英語を中心とする言語表現、言語行動の背後にある英米文化における考え方、信念、理念、価値観を学び、コミュニケーション上の異文化理解を深めます。

取得可能免許

- 幼稚園教諭：1種または2種免許
- 小学校教諭：1種免許・2種免許
- 中学校教諭(英語)：1種免許・2種免許
- 高等学校教諭(英語)：1種免許



オークランド大学教育研修



米国の大学との遠隔授業



教育実地研究での授業実践



新入生歓迎会(合宿研修)

教員の声



西村 秀夫 教授
にしむら ひでお
【担当科目】
英語史
【専門分野】
英語史

英語が好きで、英語力を高めたい、英語という言語や英米文化に関心があり、英語の諸相について深く学びたいという意欲のある人をお待ちしています。将来、英語の世界の魅力、英語を学ぶ楽しさや意義を、身を持って児童・生徒に伝えていけるような先生を目指しませんか。英語教育コースでは英語学、英米文学の専門知識に基づき英語を科学や芸術として扱える力を培い、異文化理解を深めます。さらには言語習得の知識に裏打ちされた英語教育法を学びます。豊かな英語の世界観を持った先生がたくさん巣立っていかれることを願っています。

学生の声



土肥 直人 さん
どひ なおと

英語教育コースでは、英語に関する基本的な知識から専門的な知識まで幅広く学ぶことができます。1・2年次は英語の基礎的な4技能(読む・聞く・話す・書く)を英語学・英米文学・英語教育・異文化理解などの授業を通して向上させます。3・4年次は英語の専門的な授業を通して、英語の総合的な力を磨くと共に、自分の研究する分野を決めていきます。学生の人数は1学年12~13人程ですが、同学年だけでなく他学年の人とも非常に良い関係を築くことができます。海外留学・研修へ行く学生も多く、英語に対する意識も高いため、みんなで協力し合いながら学んでいくという環境の中で自分を磨くこともできます。これからのグローバル化する社会の中で、英語を武器にできる事は非常に知的でカッコイイと思いませんか?是非このコースに入ってください!

将来のフィールド

卒業生の多くは三重県内および他府県の小学校・中学校・高校の教員になっていきますが、最近では企業に就職したり、国内外の大学院に進学する卒業生もいます。



特別支援教育コース

募集人員 前期11名、後期7名

基礎免許（小学校／中学校）と、特別支援学校の免許状、両方の取得を目指すコースです

子ども一人ひとりの特別な教育的ニーズ（発達の遅れ、他者とのかかわりの苦手さ、学習のつまずき、身体の動きの制約、疾患による制約や後遺症の影響など）に目を向け、適切な支援ができる教員等を育成するコースです。

全ての教育機関（幼稚園、小学校、中学校、高等学校等）において、特別支援教育が行われています。特別支援学校のみならず、地域の学校園にも特別な教育的ニーズを有する子どもが多く在籍しています。現在、ほとんどの学校園には「特別支援教育コーディネーター」という役割の教員がいます。すべての子どもたちの教育を支える上で、特別支援教育は欠かすことのできない基盤であり、そのプロフェッショナルとして現場で活躍できる教員を養成しています。

免許状について

特別支援教育コースでは、必ず2つの免許状を取得します。1つ目は小学校教諭免許状、もしくは、中学校/高等学校教諭免許状です。2つ目は、特別支援学校教諭免許状（知的障害者/肢体不自由者/病弱者）です。努力次第ですが、上記の免許状とあわせて、幼稚園教諭免許状の取得を目指す学生もいます。

教員の専門分野について

特別支援教育コースには、5名の教員がいます。教育学担当の教員が2名、医学担当の教員が1名、心理学担当の教員が2名です。免許状に対応する「知的障害」「肢体不自由」「病弱」の分野について学ぶほか、「発達障害」「重度重複障害」「視覚障害」「聴覚障害」などについても学びます。5名の教員で複数の分野をカバーしています。その分、学生と教員が接する機会が多いのが当コースの特徴です。

在学生の声

- ◎医学・教育・心理の専門教員から熱意溢れる講義を受けます。その為、特別支援教育について多角的に学ぶことができ自分自身の視野を広げることができます。加えて、実践現場での様々な人との関わりもあり、専門知識に限らず柔軟性を身に付けられるところも魅力の1つです。奥が深い特別支援教育を共に学びませんか。（石田理子）
- ◎特別支援教育コースでは、新たな発見をすることができます。私は、手話に興味を持ち、大学の手話講座に出席したり、聾学校にボランティアに行きました。障害者がより身近に感じられ、自分に何ができるか積極的に考えるようになりました。（清水舞）
- ◎施設や学校の訪問、ボランティア活動など様々な経験を重ね、特別支援教育について学んでいます。多くの人々との直接的な関わりによって多くの刺激を受けながら、優しい先生方や仲間とともに深く学べるのが私たちのコースの魅力です。（中村真子）



教育実習に向けた園芸活動



ボランティア活動の様子



子どもまつり（大学祭）



コースの学位記授与

教員の声



菊池 紀彦 教授
きくち のりひこ
【担当科目】
特別支援教育概論など
【専門分野】
障害児心理学

特別支援教育コースでは、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒やその保護者に対して、個人と環境の相互関係の視点に基づいた適切な支援を行うことのできる力、教育・心理・医療・福祉の関係機関の連携と協力を実現し、乳幼児期から学校卒業後までの長期的な視点から総合的支援を行うことのできる力、を培うこと目的とした授業を展開しています。幼児児童生徒の心に寄り添い、望ましい支援や指導の在り方について、教員・学生相互の議論を通して学ぶことができます。

学生の声



達坂 希 さん
おつさかのぞみ

私は基礎免許を中学校の国語科にしています。特別支援教育コースでは、特別支援の専門的な分野が学べることに加え、自分の学びたい校種についても免許が取得できます。また、本コースでは一人ひとりに目を向け、それぞれのニーズに答えるための知識を学び、考えていきます。そのため、障害をテーマに学ぶだけではなく差別や虐待問題など、幅広いテーマが授業で取り上げられ、それらの関係性について学ぶことができます。その他、講義内で学ぶだけではなく自主的にボランティアに参加できる機会が多く、自分たちでボランティア活動を企画することもあり、実践的に学べるのがこのコースの特徴です。



幼児教育コース

募集人員 前期10名

子ども時間をともに過ごしてみませんか

幼児教育者は、子どもの豊かな成長と発達に大きな役割を果たしています。このコースでは、高い専門性と実践力のある幼児教育者を育成するために、講義や演習、実習などを通して必要な専門的知識や方法を体系的に学ぶことができます。

本コースは、幼稚園教員一種免許の取得を目的としています。1年次には、保育者に必要な幅広い教養と基礎知識を身につけます。2年次には、保育の基礎理論を学び、保育参加を通して保育技能を磨きます。3年次には、理論を踏まえた保育実践を、自らが展開することを通して専門性を高めます。4年次には、保育実践を持ち寄り、理論に今一度立ち返ることを通して専門性を深めます。2016（平成28）年度より幼児教育コースに入学した学生は、保育士資格が取得できます。さらに希望によっては、小学校一種、二種の教員免許も取得することができます。

幼児教育学

人間の発達過程のうち、最も著しい時期が幼児期といわれています。この時期の子どもにとって望ましい教育内容や方法、環境のあり方などに、「子どもの最善の利益」の立場に立ちアプローチする領域が幼児教育学です。

幼児心理学

心身ともに著しい成長を遂げる乳幼児期の子どもの心理的発達について学びます。こころの発達過程について知ることは、子どもの思いをより深く理解することに繋がります。

保育内容研究

乳幼児の発達に基づいた保育内容（人間関係、言葉、表現、健康、環境）を学びます。具体的な実践や事例から知識や技能を習得するとともに、保育の指導・援助のあり方について考えを深めます。



教員の声



須永 進 特任教授
すなが すずむ
【担当科目】
幼児教育学
幼児教育学特別研究I-II
教育課程総論 ほか
【専門分野】
幼児教育学、子育て支援
子どもの保育

幼児教育では、幼児教育学、保育内容、幼児心理学を中心に、子どもの幼児期に関する理論や実践等の学習を通して幼児の望ましい成長・発達について系統的に、また体系的に学ぶことを目的としています。入学後、基礎から専門科目へ、学ぶ主体である学生の学習の興味や関心によってカリキュラムが構成され、4年間で必要とされる幼児教育に関する学習内容を履修できるようになっています。また、附属幼稚園等での見学や観察、教育実習を通して体験的理解と実践力を身につけることができます。このコースでは幼稚園教諭一種免許状と保育士資格のほか、必要科目の履修により小学校教諭一種または二種免許状の取得が可能です。

学生の声



間宮 希帆 さん
まみや きほ

私はずっと保育士が夢だったので、その夢を叶えるために幼児教育コースを選びました。幼児教育コースでは保育に関する専門的知識や技術を学ぶことができます。さらに、授業では映像や事例を通して子どもや保育現場の様子を具体的に想像しながら学ぶことができるとともに、実際に幼稚園や保育所で子どもと触れ合う機会も多く設けられているのでより実践的に学ぶことができます。また、子どもが楽しめる遊びを企画して実際に運営したり、自ら考えた玩具を手作りしたり、といった経験もできます。1学年約10人という少人数ですが、他学年との交流も多くあるとともに、全員で協力して取り組むことができるので、楽しく、お互いに切磋琢磨できる環境だと思います。皆さんも夢に向かって一緒に頑張りましょう。

将来のフィールド

小学校の先生や、特別支援学校の先生を目指す学生が一般的です。幼稚園の先生や、試験を受けながら保育士を目指す学生もいます。この他に、行政や福祉の立場からの支援（公務員など）を目指す学生や、より専門性を高めていく（大学院への進学など）学生もいます。

将来のフィールド

幼児教育コースの卒業生の多くは、幼稚園や保育所を中心に就職していますが、近年では、社会的要請の高い保育所への就職が増えています。また、地方公務員、企業等への就職者も少なくなく、その多くは正規職員として社会進出しています。



学校教育コース 教育学専攻

募集人員 推薦3名、前期7名

学校での問題を教育学を通して解決できる人を育てます

学校教育現場の多側面で活躍できる能力を育成する総合的なカリキュラムがあります。教育学の豊富な知見を学ぶ授業とともに、それらを現場で生かすための実践的な科目が準備されています。

教育学専攻は、教科内容ではなく教科を越えた「教えること」に関わる内容を中心に学びます。そのために、教育学のスタッフが、教科の学習指導の根本となるような事柄(教育の哲学、教育方法など)や、いじめ・不登校・学級崩壊など学校の諸問題、そしてより大きな教育システム(教育制度、諸外国の教育など)に関わる事柄など、教育に関わる幅広い理解ができるカリキュラムを用意しています。

本専攻は、小学校一種免許の取得が卒業要件となっており、必要な単位を取得すれば、中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校の一・二種免許の取得が可能です(中学・高校の免許については教科によって取得できない場合もあります)。他に、学校図書館司書教諭や学芸員の資格の取得も可能です。

教育学専攻には、以下のような特色ある授業科目があります。

教育の哲学

学校教育で扱われている諸テーマについて、それらがなぜ教育上価値あるものとされるのかについて考えます。例えば、経験によっては獲得されえない知が教育において有する意味について探求します。

子どもの生活と教育

子どもたちが自分たちの生活における様々な問題を発見し、その解決に向けた取り組みを続け、その過程で学び合っていくような教育の意義と可能性を追求します。

学校教育実地研究

学校教育に関係する様々な活動に関わることを通して、現場で生かせる力を育てます。

教育学研究演習

自身の関心に即して研究テーマを設定し、それぞれのテーマをもったメンバーとの活発な議論を重ねながら、探究を進めていきます。



入門セミナーの授業風景



研究演習の授業風景



学校教育実地研究



学生控室でのようす



学校教育コース 教育心理学専攻

募集人員 推薦3名、前期7名

学校での子どもの問題を心理学的側面から支援できる人を育てます

学校教育のなかで、心理学は古くから学習・発達・対人関係・こころの問題などに関する数多くの知見を提供しています。教育心理学専攻では、心理学の方法論を学び、専門的知識を持つ教師として、学校現場で活躍できる人材の育成を目指します。

教育心理学専攻は、心理学の基本的な内容を中心に学びます。

学校教員として必要な心理学の素養を身につけてもらうため、教授法や学習心理学の分野、発達や認知心理学の分野、社会心理学やコミュニケーションの分野、発達臨床や心理的援助の分野を学んでいきます。また、大学での学習にとどまらず、県内の小学校などでの教育実践の機会も積極的にとりもっています。

本専攻は、小学校一種免許の取得が卒業要件となっており、必要な単位を取得すれば、中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校の一・二種免許の取得が可能です(中学・高校の免許については教科によって取得できない場合もあります)。他に、学校図書館司書教諭や学芸員の資格の取得も可能です。

教育心理学専攻には、以下のような特色ある授業科目があります。

発達臨床

子どもの事例をとりあげながら、心理面や認知面に配慮した具体的な援助方法について学んでいきます。

心理データ解析

心理学の研究法として、質問紙調査法の実施方法とデータの統計的分析手法を学びます。

学習心理学

記憶や動機づけなど子どもの学習場面に関わる理論について、その応用も視野に入れながら学んでいきます。

学校教育実地研究

学校教育に関係する様々な活動に関わることを通して、現場で生かせる力を育てます。



研究法の一授業での授業風景



学校教育実地研究



行動科学基礎実験



研究室ゼミの様子

教員の声



伊藤 敏子 教授
いとうとしこ
【担当科目】
教育の哲学、教育の人間学
文献講読法
【専門分野】
教育哲学

教育学専攻は、小学校免許を必須としていますが、多くの学生は、幼稚園や特別支援、また中学校の免許も取得します。学生の気質(かたぎ)としては、子どもが好きで、子どもの発達や内面に関心のある人が多いです。カリキュラムとしては、理論と実践の融合を目指し、哲学や理念を持って、専門的な共同体をつくりながら教育実践をデザインできる教師(カリキュラムや授業づくり、そして生活指導の力を持つ)を育てます。また実際に学校現場に足を運んで活動する実地研究科目を早期(1年生)から設定し、教育の現代的諸問題に対する課題解決能力を育てています。

学生の声



加藤 大智 さん
かとう たいち

小・中・高で馴染のある科目名を掲げるコースとは異なり、学校教育コース教育学専攻では一体何を学ぶのか、明確なイメージを描きにくいかもしれません。教育学専攻の授業では教育そのものについて様々な視点から迫っていきます。具体的には、授業の記録・分析、また授業作りを通して教師の仕事の実際に触れる「授業観察・分析法」、子ども自身の(語り)と教師・おとなの子どもをめぐる(語り)から子ども理解を考える「子どもの生活と教育」などがあります。また、教育学専攻の特徴として、実践的な活動が多いことが挙げられます。1年生のうちから市内の小・中学校で放課後の学習支援活動に参加する機会があります。このカリキュラムを通じて大学内での授業で獲得された知を教育現場における実践の知へと連動させて成長していくことができます。

教員の声



中西 良文 教授
なかにしよしふみ
【担当科目】
学習心理学
モチベーションサイエンス
【専門分野】
学習心理学

学校教育において、教育心理学の知識は、子どもの育ちを支えるとても大切なものです。特に、学校の中でなかなか適応できない子どもや学校場面での学習が困難な子どもに対する支援において、このような知識が果たす役割は大きいです。ただ、そのような場面での子どもへの支援においては、忍耐強さや真摯さが極めて重要になってきます。また、子どもや様々な専門家と丁寧にコミュニケーションをとっていきける力も必要です。本専攻で学習することで、そのような力を身につけ、活躍できることを期待しています。

学生の声



井上 柚奈 さん
いのうえ ゆずな

学校教育コースでは、他コースと違い科目にとらわれることなく「教育」について考え、学びを深めることができます。なかでもこの教育心理学専攻では、心理学の基礎・発展まで幅広く学ぶことができます。心理学は教育から離れた学問のように感じるかもしれませんが、心理学を学ぶことで子どもたちとの関わり方について考え、寄り添っていく力がつきます。心理学の観点から学校現場を見ることで新たな発見や気づきを得られます。また、同じ学校教育コースの教育学専攻の学生とも共に学ぶ機会が多くあり、より広い視野を身につけることができます。その他に実地研究など実践的な学びが多いことも、このコースの特徴です。

将来のフィールド

主な就職先として、三重県公立小学校、愛知県公立小学校、奈良県公立小学校、京都府公立小学校、教育・学習支援業(学習塾など)、公務員(市役所など)、一般企業などがあり、大学院に進学する者もいます。

将来のフィールド

主な就職先として、小学校教員が挙げられます。この専攻での学習を通して、カウンセリングマインドを持った教員として活躍できることを期待しています。他にも、公務員(児童相談所・児童福祉施設などの心理職)や大学院進学(教育・発達系の資格取得のため、研究者志望)などもあります。



附属教職支援センター

教員を目指す学生の学びをサポートします

附属教職支援センターは、英語で **Center for Future Teachers and School Support** と表記されています。「未来の教員」とは、教育学部で学びたい皆さんです。将来、幼・小・中・高・特支学校等で教員になりたい夢をサポートします。

教職支援センターは、「教育学部における教員養成教育、教師教育についての支援業務および調査・研究の成果に基づき学校教育の発展・充実に寄与する」という目的のもと、平成27年4月1日に新設されました。

教員養成支援部門
学校現場経験者を中心とする専任スタッフが、教員採用試験合格までの手厚いサポートを行います。

学校連携支援部門
近隣学校園を含めた地域連携型の実践的な教育体制をサポートします。

研修開発支援部門
現職教員の研修や教師育成に関する開発と支援を行います。

総合支援室
教育実践力の育成を目的とする科目の履修や活動カルテの企画や管理を通して学生の学修支援を行います。

教員採用試験対策セミナー

教員採用試験を受験する学生を対象として、3年次後期から教員採用試験合格のためのセミナー(教授セミナー)を開催しています。オリジナル教材や模擬試験などを通して、筆記・面接・論文・模擬授業などの準備・対策ができます。

- 3年次後期**
10月～3月 面接練習(幼教対象)、ウィンターレビュー、学内模試(第1回)、面接説明会・テマノート作成指導、小学校DVDセミナー
- 4年次**
4月 学内模試(第2回) 7月 論述指導・小学校実技セミナー
5月 学内模試(第3回)・論文指導(～8月) 8月 2次対策(面接・集団討論・模擬授業・場面指導等)
6月 学内模試(第4回)・面接練習・小学校実技セミナー 9月 面接練習(幼教対象)



教員の声



須曾野 仁志 教授
すそのひとし
【担当科目】
教育の方法と技術
【専門分野】
授業デザイン論
アクティブラーニング

将来、教員を目指す学生は、学校で担当する教科や活動内容を知っているだけでなく、教え方や学び方、そして、子どもの心理についてもよく知っておくことが大切です。学生時代には学校現場を訪れ、授業を数多く参観し、現場の先生から学ぶことも重要です。「教員になりたい」という皆さんの夢を実現させることをまず第一優先に考えていますが、学校園に就職してからも生涯学び続ける現職教員の研修・サポートや、三重県内の学校との連携支援も、教職支援センターでは大事にしています。



もっと詳しく 教育学部の教職支援については、次のページをご覧ください。
<http://www.edu.mie-u.ac.jp/education/teaching-pr/index.html>

入試情報

令和2年度入学状況 (単位:人)

課程	学校教育教員養成課程																					
	国語教育				社会科教育				数学教育・情報教育(数学教育専攻)				数学教育・情報教育(情報教育専攻)		理科教育							
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		中等教育		初等教育		中等教育					
選修	地推	前期	後期	前期	後期	地推	前期	後期	前期	後期	地推	前期	後期	前期	後期	前期	後期	推薦	地推	前期	前期	後期
募集人数	※	10	3	7	2	※	7	2	5	2	※	8	2	8	2	8	2	4	※	5	9	—
志願者数	0	26	36	31	34	1	20	29	16	69	2	33	23	30	29	24	26	11	1	21	30	—
受験者数	0	25	14	30	14	1	20	13	16	21	2	27	15	30	14	23	11	6	1	21	28	—
合格者数	0	10	3	7	2	1	6	2	5	2	1	8	2	8	2	8	2	4	1	5	9	—
入学者数	0	10	3	7	2	1	6	2	5	1	1	8	2	8	2	8	2	4	1	4	9	—

課程	学校教育教員養成課程																								
	音楽教育				美術教育				保健体育				技術・ものづくり教育				家政教育								
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育						
選修	地推	前期	後期	前期	後期	地推	前期	後期	前期	後期	地推	前期	後期	前期	後期	地推	前期	後期	推薦	前期	推薦	地推	前期	前期	後期
募集人数	※	3	3	3	—	※	5	—	3	—	※	5	3	5	3	※	4	—	1	4	3	※	4	5	—
志願者数	0	8	23	10	—	0	6	—	7	—	0	12	17	11	19	1	39	—	3	14	10	0	34	8	—
受験者数	0	8	10	10	—	0	6	—	7	—	0	12	8	11	9	1	38	—	3	13	7	0	30	7	—
合格者数	0	4	3	3	—	0	6	—	3	—	0	6	3	5	3	0	5	—	1	4	3	0	4	5	—
入学者数	0	3	3	3	—	0	6	—	3	—	0	5	3	5	3	0	5	—	1	4	3	0	4	5	—

課程	学校教育教員養成課程														教育学部合計					
	英語教育				特別支援教育		幼児教育		学校教育(教育学専攻)				学校教育(教育心理学専攻)							
	初等教育		中等教育		—	—	—		—		—		—							
選修	地推	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	推薦	地推	前期	推薦	地推	前期	推薦	地推	前期	後期	合計
募集人数	※	5	—	7	—	11	7	10	—	3	※	7	3	※	7	14	※	155	31	200
志願者数	0	21	—	23	—	23	63	46	—	12	1	12	10	0	51	46	6	556	368	976
受験者数	0	20	—	23	—	23	27	44	—	12	1	11	10	0	49	38	6	532	156	732
合格者数	0	6	—	7	—	13	7	10	—	3	1	7	3	0	8	14	4	162	31	211
入学者数	0	5	—	7	—	12	7	10	—	3	1	7	3	0	8	14	4	157	30	205

注)各コースの志願者数、受験者数は第1志望の集計です。合格者数は正規合格者、入学者数は正規入学者。

令和3年度入学定員 (単位:人)

課程	学校教育教員養成課程																										
	国語教育				社会科教育				数学教育				理科教育				音楽教育										
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育								
選修	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	後期	前期				
募集人数	※	※	11	3	7	2	※	※	8	2	5	2	※	※	9	2	8	2	※	※	10	9	※	※	4	3	3

課程	学校教育教員養成課程																							
	美術教育				保健体育				技術・ものづくり教育				家政教育				英語教育							
	初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育		初等教育		中等教育					
選修	南部	全域	前期	前期	南部	全域	前期	後期	前期	後期	南部	全域	前期	推薦	前期	南部	全域	推薦	前期	前期	南部	全域	前期	前期
募集人数	※	※	6	3	※	※	6	3	5	3	※	※	5	2	3	※	※	3	5	5	※	※	6	7

課程	学校教育教員養成課程														教育学部合計				
	特別支援教育				幼児教育				学校教育(教育学専攻)				学校教育(教育心理学専攻)						
	—		—		—		—		—		—		—						
選修	全域	前期	後期	全域	前期	南部	全域	推薦	前期	南部	全域	推薦	前期	南部	全域	推薦	前期	後期	合計
募集人数	※	11	7	※	10	※	※	3	7	※	※	3	7	※	※	11	160	29	200

注1)募集人数については変更する場合があります。初等・中等の選修があるコースにおいては、初等のみ、中等のみの選択ができます。
 注2)「南部」の※は地域推薦入試(南部枠)で募集があることを示します。なお、地域推薦入試(南部枠)の合格者は各コース1名以内、合計5名以内とします。また、合格者があった場合は前期日程の定員を充当します。
 注3)「全域」の※は地域推薦入試(三重県全域枠)で募集があることを示します。なお、地域推薦入試(三重県全域枠)の合格者は各コース1名以内、合計13名以内とします。また、合格者があった場合は前期日程の定員を充当します。

進学

大学院で学ぶ

より専門的な知識を求めて

学校教育における高度な能力の獲得を目的として設置され、学部卒業生だけでなく、多くの現職教員の方々が学んでいます。

平成29年度より教育科学専攻と教職実践高度化専攻(教職大学院)の2つの専攻になりました。

今後は教職実践高度化専攻へ完全移行することを計画しています。

大学院教育学研究科 教育科学専攻

● 理念・目的

教育科学専攻は、人間の発達及び教育に関する高度な専門的研究を進めるとともに、教育現場における諸課題の解決にリーダーシップを発揮できる人間性豊かな教員の養成のための高度な教育・研究を行うことを目的とします。

● ポリシー

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

- ◎ 教育に強い関心を持ち、その専門的研究を進めていくための意欲と素養を有している。
- ◎ 将来、教育の分野において専門の職業人を目指している。
- ◎ 現場での経験を有する者については、現場での経験を基に、専門的な研究を進める意欲がある。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- ◎ 児童・生徒の実態や教育諸問題の理解に必要な教育学および専攻する領域・分野の専門的知識を修得している。
- ◎ 専攻する領域・分野に関する教育課題について理論的・実践的研究能力を身につけている。
- ◎ 異文化・多世代の人と協働することや、省察的実践の意義を理解することができる。
- ◎ 自律性をもった専門的職業人として、継続的に理論的・実践的研究に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

三重大大学院教育学研究科教育科学専攻は、教育に関する高度専門職業人を育成することを目的とし、以下の3つの授業科目群を並列・積み上げ型に配置し、専攻領域における深い研鑽と教育に関する幅広い学修との往還を重視したカリキュラムを策定する。

- 専攻共通科目群
- 教育領域共通科目群
- 教育領域専門科目群

大学院の構成

(修士課程 1専攻5教育領域)

教育科学専攻

学校教育領域

学校教育

特別支援教育領域

特別支援教育

人文・社会系教育領域

国語教育学、国語学、国文学、書道、社会科教育、歴史・思想学、地域科学、英語科教育、英語学、英米文学

理数・生活系教育領域

数学科教育、代数学、幾何学、解析学、応用数学、理科教育、物理学、化学、生物学、地学、技術科教育、技術学、家庭科教育、家政学

芸術・スポーツ系教育領域

音楽科教育、器楽、作曲・指揮法、美術科教育、美術、保健体育科教育、体育・スポーツ学、運動学、学校保健

40歳の学びなおし

三重大大学院
教育学研究科
教育科学専攻
理数・生活系領域



服部 真一 さん
三重大教育学部附属
小学校教員

私は、三重大教育学部を卒業してすぐ小学校の教員になりました。その後、現在まで17年間小学校の教員を続けています。三重大教育学部附属小学校で勤務させていただいたことがきっかけで、教員の仕事をしながら三重大大学院に進学できる機会を頂きました。これからは私のように、大学を卒業してから教育現場を経験し、その後、大学院等で学びを深めていく現職教員は益々増えていくと思います。

大学院での一番の学びは、「教育」の「学び方」を学んだことです。

これまで私は、経験豊かな先輩教員から、「教育」に関する知識や技術を学んできました。そして、それらを子どもたちの前で実践し、1つずつできることを増やしてきました。ちょうど技術を伝承していく仕事の師弟関係に似ているかもしれません。ですから、私は、新しい学校に赴任するとまず、自分が参考にしたい師匠を探していたように思います。

しかし、大学院で学ぶ「教育」は、これまで私がしてきた方法とは異なり、科学的な研究から学びます。先進的な研究を実際に行っている先生方から直接学ぶこともできますし、書物や研究論文などから学ぶこともできます。海外の研究に学ぶことも多いです。大学院での授業では、これらの優れた研究に数多く出会うことができます。

これからも、教員として教壇に立ち続けるためには、「教育」を学び続けていかなければいけないと思っています。そのためには「教育」の「学び方」が重要になってきます。「何を学びたいのか」といった目的意識をもち、身近にいる先輩教員から学ぶだけでなく、優れた研究からも学び、目の前にいる子どもたちに実践しながらその学びを深める、この繰り返しこそ、「教育」の大切な「学び方」なのだと思います。この「学び方」を大学院で習得させていただいたことは、これからも教員を続けていく私にとって、とても大切なものになりました。これからも大学院で学んだ「学び方」を基礎とし、引き続き教壇に立ちながら「教育」を学んでいきたいと思っています。

■ 学位と取得免許

本専攻を修了すると修士(教育学)の学位が授与されます。また、教育職員免許法に定める所定の単位数を修得すれば取得単位に応じた専修免許状の取得資格が得られます。ただし取得には対応する一種免許状をすでに有している必要があります。なお、学部授業を履修することで未取得の教科の免許を追加したり、二種の免許を一種に変更することも一部可能です。

■ 長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有する等の個人の事情に応じて、柔軟に標準修業年限(2年)を超えて履修し(最大4年間)、学位等を取得できるようにする制度です。本専攻では教育職員免許状取得のために長期履修制度を利用することもできます。この場合は既得の教育職員免許状が一切ない場合でも単位取得に応じた専修免許状まで取得することが可能です。

■ 大学院に進んだ理由

私は学部生の時、統計教育について学んでおり、より実践的な研究がしたいと思い、大学院に進みました。

■ 院生生活・よかったこと

大学院の講義は発表することも多く、準備が大変なこともあります。グループ活動や話し合いながら進めていく授業が多く、いろんな人と意見交換ができて楽しいです。また、日々の研究、学会や研究大会での発表などは、準備など1人でやるのが多く、苦しいこともありましたが、修論も書きおわり、2年間を振り返ってみると、とても充実していたなと思います。学部生の時とは違う大変さもありますが、何事も一生懸命取り組みれば、充実した楽しい2年間になると思います。

山田 恵理 さん 三重県立紀南高校教員



大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

● 理念・目的

教職実践高度化専攻(教職大学院)は、三重県における喫緊の教育課題に取り組むため、学校を変える推進者としてのスクールリーダー及び将来的に地域教育を支えるミドルリーダーとなる資質・力量のある新人教員を養成することを目的としています。現職教員を対象とする「学校経営力開発コース」と、学部新卒者等を対象とする「教育実践力開発コース」の2コースから構成されており、コース合同で授業を行うことで、現職教員学生と学部新卒学生等が相互に刺激し学び合うことを重視しています。

● ポリシー

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

- ◎ 現職教員: 学級・学校経営、学習指導方法の開発・改善、生徒指導・教育相談、教育課程、教師教育等における様々な今日的課題を解決するために、確かな指導理論の構築を目指し、より高度な実践力と応用力を身につけたい教員。特に、学校現場での経験に基づき、教職大学院での明確な研修テーマや課題を持ち、それらを協働で解決し、学校や地域において指導的役割(スクールリーダー)として将来活躍できる教員。
- ◎ 学部新卒者等: 大学院修了後、学校教員を目指し、学級・学校経営、学習指導方法の開発・改善、生徒指導・教育相談、教育課程、教師教育等における様々な今日的課題に強い関心があり、学校現場での実習や現職教員学生との協働により、教職に関する実践的な専門性や高度な実践力を身につけたい人。
- ◎ 特に、次の3点を入学者に求めています。

【探究】学校・地域の教育課題をより広い視野で探究できる人

【協働】より柔軟な発想で協働的に学び続けることができる人

【創造】地域の教育の未来を創造することに強い思いを有している人

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- ◎ 児童・生徒の実態や教育諸問題の理解に必要な専門的知識を修得している。
- ◎ 専攻する領域・分野に関する教育課題について理論的・実践的研究能力を身につけている。
- ◎ 異文化・多世代の人と協働することや、省察的実践の意義を理解することができる。
- ◎ 高度専門職業人として、継続的に理論的・実践的研究に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

本教職大学院は、教育に関する高度専門職業人を育成することを目的とし、以下の3つの授業科目群を配置し、理論と実践の往還を重視したカリキュラムを策定する。

- 共通科目群
- 選択科目群
- 中核(コア)科目群

大学院の構成

(専門職学位課程 1専攻2コース)

教職実践高度化専攻

学校経営力開発コース

現職教員を対象として、専門的知識や技能を学んで三重県の教育課題に取り組む学校を変える推進者となるスクールリーダーを養成します。

教育実践力開発コース

小中高の一種免許状を有する学部新卒者等を対象として、実践的な指導力・展開力を備え、将来ミドルリーダーとなる新人教員を養成します。(三重県の教員採用選考試験に合格して採用候補者名簿への登載を2年間猶予された者を含む)



就職

優れた就職実績

近年、全国的に教員採用数が増えてきています。講師への需要も高く、卒業生も教育の現場での就職が可能で、教員免許が必修の学校教育教員養成課程の学生はほとんどが教員となっています。教員以外では公務員や一般企業への内定が決まり、教育学部全体で見るとほぼ全学生が就職しています。

平成30年度卒業生データ

教育学部全体の就職率

就職希望者に対する就職内定率

学校教育教員養成課程の学生の教員採用率

大学院進学者と保育士を母数から除いた率

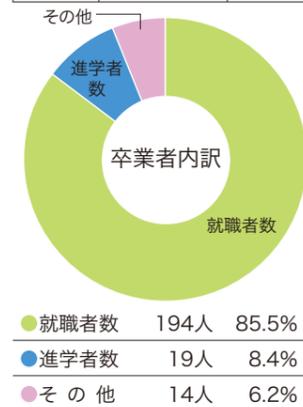
就職者の6割以上が、教員として採用

98.5% 71.3% 63.9%



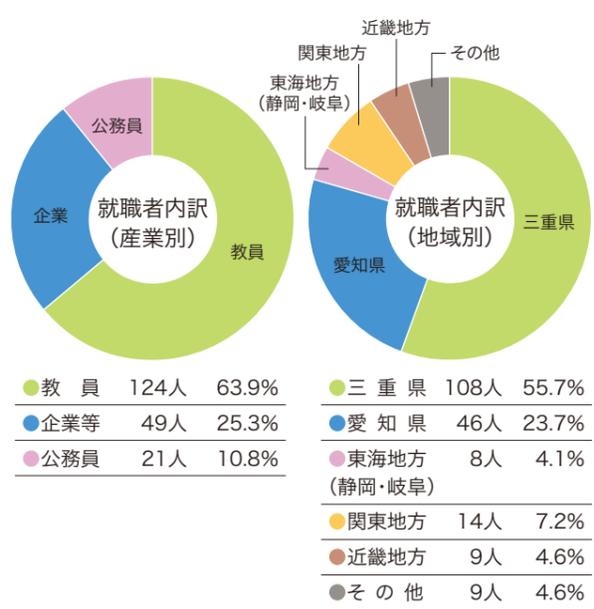
平成30年度卒業者の就職状況

卒業生	227
就職者数	194
進学者数	19
その他	14
計	227



平成30年度就職者の産業別就職状況

農・林・魚・鉱業	0
建設業	1
製造業	7
電気・ガス・水道業	0
情報通信業	7
運輸業・郵便業	1
卸売・小売業	4
金融・保険業	5
不動産業	3
飲食店・宿泊業	1
医療・福祉(医師を除く)	6
教育・学習支援(教員を除く)	6
複合サービス業	0
サービス業	2
公務員	21
教員	124
技術サービス業	3
娯楽業	2
その他	1
計	194



教育について

Q & A Questions & Answers

受験について

Q 出願時に、コース間での併願はできますか？

A 基本的にはできます。しかし、コースによっては、条件があったり受験科目が違ったりすることもあります。できないところもあるため、入試要項をよく読んで、出願してください。

Q 三重大学教育学部について知ることができるものは、学部案内のほかに何がありますか？

A 主に2つあります。1つ目は、直接話を聞いたり、見学ができたりする、8月に行われる教育学部のオープンキャンパスです。全体で教育学部についての話を聞いた後、各コースに分かれて説明や模擬授業が行われるため、それぞれのコースについても詳しく知ることができます。2つ目は三重大学や教育学部のホームページです。入試情報をはじめ、教員紹介や附属学校園について紹介されています。コースによっては、独自にホームページを立ち上げているところもあるので、検索してみてください。さらに、大学祭などの行事に参加した時には、学生や先生方に気軽に声をかけてみるのも一つです。

学生生活について

Q 他コースの人との交流や教員との関係はどうですか？

A 教育学部では、グループで協力する授業や教育実習もあり、自分のコースを超えて様々な人との交流があり、とても仲良くなれます。また、教員に対する学生数も少ないので教員との関係もふかく、より専門的な指導や相談などをすることができます。

就職について

Q 教員採用試験対策はありますか？

A あります。本学部には校長経験者からなる教職支援センター・教員養成支援部門があり、教員採用試験対策セミナーとして、面接練習(個人、集団)や小学校実技練習、教職教養・小学校専門DVD講座、学内模試等を行っています。詳しくは <http://www.edu.mie-u.ac.jp/education/teaching-pr/index.html> をご覧ください。

Q 教育学部ではどのような免許がとれますか？

A 幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校の免許が取得できます。教員免許の中で複数教科(国語と社会など)を取得することも可能ですが、その分必要な単位数が増えますので、教科によっては時間割や実習などの都合で物理的に履修が不可能な場合があります。教員免許の他には、学芸員や学校図書館司書教諭の資格も取得することができます。

Q 子どもと接する機会はどれくらいありますか？

A 代表的なものとしては教育実習があります。そのほかにも、実践的な授業を受講することやボランティアに参加することなどによって1年生から卒業に至るまで多くの場面で子どもたちと接する機会があります。

Q 教育学部で留学することはできますか？

A もちろんです！教育学部が主催している海外教育研修のほか、協定を結んでいる学部間・大学間の交換留学があります。また、生協では留学プランを多数扱っています。留学は費用もかかりますし、期間についても1ヶ月程度の短期留学から半年・1年にわたる長期留学まで様々あるので、単位取得との兼ね合いを考えながら計画を立てることをお勧めします。

Q 小学校の免許を取りたい場合、学校教育コースに入らないといけないですか？

A 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・ものづくり、家政、英語の各コースに初等教育選修がありますので、こちらを選んでも小学校の免許が取得できます。深く学びたい教科があるならこちらを選んでいいと思います。(この方が、その教科の中学校免許も取りやすくなります)。また、教科の初等教育選修では、専門的なことも学べますので、「絵の上手な先生」「算数の得意な先生」など、「何かに自信を持っている先生」になれるかもしれません。もし、特定の教科にこだわらず、「教えること」を学びたい、もしくは「学校での子供の心理的なこと」を学びたいなら学校教育コース(教育学専攻、教育心理学専攻)を選ぶといいと思います。こちらを選ぶと「学校現場の問題を、教育学を通して解決できる先生」「子どもの問題を、心理学的側面から支援できる先生」などになれるのではないのでしょうか。※上記以外のコースでも、副免許として小学校の免許を取ることが可能です。詳しくは三重大学に直接お尋ねください。

Q 中等教育選修を目指していますが初等教育選修に入学しても中学校教員の免許が取得できますか？

A 初等教育選修で合格された場合でも、中学校教員免許の取得は本人の努力によって可能です。入学された大多数の学生は、自分の所属するコースで小学校・中学校・さらには高校などの複数校種の免許を取得して卒業します。

Q 高校の教員免許を取得するにはどうしたらよいですか？

A 本学では中等教育選修で学修されると、卒業と同時に中学校免許が取得できるようにカリキュラムが組まれています。高校教員の免許は、同じ教科であれば中学校教員免許に必要な単位数に、さらに8単位を加えれば取得が可能です。卒業に必ずしも必要ではない単位取得については、開講時間により計画通りに時間割が組めない可能性もあり、その点は工夫と努力が必要になります。なお、初等教育選修に入学された場合でも、必要な授業数はさらに増えますが上述のような工夫と努力次第で取得は可能となります。

教育学部の入試に関しては以下のページもご覧ください。

<http://www.edu.mie-u.ac.jp/exam/fc/index.html>

コース別の進路状況

コース別の進路状況

過去3年間

※各コースの専門性等に基づき、本表の表記や内訳は厳密に統一されてはおりません。

コース	年度(卒業生)	内 訳
国語教育コース	令和元年度(23名)	教諭10名(小学校7名、中学校2名、高校1名)、私立中高一貫1名、私立小学校1名、講師1名(小学校)、公務員2名、社会福祉法人1名、企業6名、大学院進学1名
	平成30年度(15名)	教諭8名(小学校3名、中学校5名)、私立中高一貫2名、講師2名(小学校1名、高校1名)、公務員1名、企業2名
	平成29年度(12名)	教諭9名(小学校7名、中学校2名)、講師1名(小学校1名)、企業1名、大学院進学1名
社会科教育コース	令和元年度(17名)	教諭8名(小学校5名、中学校2名、高校1名)、講師1名、公務員3名、企業3名、大学院進学2名
	平成30年度(17名)	教諭4名(小学校4名)、講師6名、公務員3名、企業1名、大学院進学2名、その他1名
	平成29年度(14名)	教諭8名(小学校8名)、講師1名、公務員3名、大学院進学2名
数学教育・ 情報教育コース 数学教育専攻	令和元年度(20名)	教諭11名(小学校3名、中学校7名、高校1名)、講師2名、企業4名、大学院進学3名
	平成30年度(21名)	教諭8名(小学校2名、中学校5名、私立学校1名)、講師6名(中学校3名、小学校3名)、企業3名、地方公務員1名、大学院進学3名
	平成29年度(20名)	教諭11名(小学校8名、中学校1名、高校1名、私立学校1名)、講師3名(小学校1名、中学校1名、高校1名)、企業2名、大学院進学4名
数学教育・ 情報教育コース 情報教育専攻	令和元年度(11名)	教諭3名(小学校2名、中学校1名)、講師4名(小学校1名、高校1名、私立高校1名、特別支援学校1名)、公務員2名、企業2名
	平成30年度(10名)	教諭4名(小学校2名、中学校1名、私立中学校1名)、講師4名(小学校2名、中学校1名、高校1名)、企業1名、進学1名
	平成29年度(11名)	教諭4名(小学校1名、中学校3名)、講師2名(中学校1名・高校1名)、公務員1名、企業4名
理科教育コース	令和元年度(16名)	教諭11名(小学校7名、中学校4名)、企業3名、大学院進学2名
	平成30年度(15名)	教諭9名(小学校7名、中学校1名、特別支援学校1名)、講師4名(小学校1名、中学校3名)、大学院進学1名、企業1名
	平成29年度(18名)	教諭12名(小学校5名、中学校6名、私立学校1名)、講師2名(小学校1名、高校1名)、大学院進学2名、公務員1名、その他1名
音楽教育コース	令和元年度(9名)	教諭2名(小学校1名、中学校1名)、講師4名(小学校3名、小学校・中学校兼務1名)、企業等3名
	平成30年度(10名)	教諭5名(小学校3名、中学校1名、特別支援学校1名)、講師3名(小学校3名)、企業2名
	平成29年度(8名)	教諭3名(小学校2名、中学校1名)、講師2名(小学校1名、中学校1名)、企業2名、その他1名
美術教育コース	令和元年度(7名)	企業5名、大学事務1名、大学院進学1名
	平成30年度(7名)	教諭(中学校1名)、講師(高等学校1名)、企業(4名)、進学(1名)
	平成29年度(8名)	企業6名、大学院進学2名

学校教育教員養成課程

コース	年度(卒業生)	内 訳
保健体育コース	令和元年度(17名)	教諭8名(小学校8名)、講師4名(高校4名)、公務員4名(市役所3名、消防士1名)、企業1名
	平成30年度(14名)	教諭9名(小学校8名、中学校1名)、講師1名(高校)、公務員2名(市役所2名)、企業1名、その他1名
	平成29年度(18名)	教諭10名(小学校10名)、講師1名(中学校)、進学2名、公務員4名(市役所1名、消防1名、三重大職員2名)、企業1名
技術・ものづくり 教育コース	令和元年度(9名)	教諭6名(小学校3名、中学校3名)、講師2名(小学校1名、中学校1名)、その他1名
	平成30年度(10名)	教諭3名(小学校1名、中学校1名、高等学校1名)、講師3名(小学校1名、中学校2名)、公務員1名、企業2名、大学院進学1名
	平成29年度(9名)	教諭5名(小学校4名、中学校1名)、講師3名(小学校2名、中学校1名)、進学1名
家政教育コース	令和元年度(14名)	教諭5名(小学校3名、中学校2名)、公務員2名、企業6名、大学院進学1名
	平成30年度(15名)	教諭5名(小学校3名、中学校1名、私立幼稚園1名)、講師4名(小学校1名、中学校2名、公立こども園1名)、公務員1名、民間企業3名、留学1名、その他1名
	平成29年度(12名)	教諭2名(小学校2名)、講師4名(小学校2名、中学校2名)、企業5名、大学院1名
英語教育コース	令和元年度(12名)	教諭9名(小学校8名、中学校1名)、企業2名、公務員1名
	平成30年度(13名)	教諭3名(小学校2名、中学校1名)、講師4名(小学校2名、中学校1名、高校1名)、大学院進学3名、企業2名、海外留学1名
	平成29年度(12名)	教諭7名(小学校3名、中学校4名)、講師2名(小学校2名)、公務員1名、企業2名
特別支援教育コース	令和元年度(18名)	教諭6名(幼稚園1名、小学校4名、特別支援学校1名)、講師3名(小学校1名、特別支援学校2名)、公務員3名、企業等4名、大学院進学2名
	平成30年度(19名)	教諭8名(幼稚園2名、小学校3名、特別支援学校2名)、常勤講師6名、公務員1名、企業3名、大学院進学1名
	平成29年度(16名)	教諭8名(小学校6名、特別支援学校2名)、講師3名、公務員1名、一般就労4名
幼児教育コース	令和元年度(10名)	公立保育園6名、公立幼稚園1名、公立小学校1名、地方公務員2名
	平成30年度(11名)	公立保育園6名、認定こども園1名、私立保育園3名、児童福祉施設1名
	平成29年度(12名)	公立保育園8名(うち、1名非正規)、公立小学校1名、企業等2名、未定1名
学校教育コース 教育学専攻	令和元年度(10名)	教諭5名(小学校5名)、講師1名(小学校1名)、日本人学校教育1名、私立保育園1名、企業2名
学校教育コース 教育心理学専攻	令和元年度(11名)	教諭1名(高等学校1名)、企業1名、公務員4名(大学職員含む)、大学院進学5名
学校教育コース	平成30年度(10名)	教諭2名(小学校2名)、講師1名(小学校1名)、公務員2名、企業3名、大学院進学2名
	平成29年度(19名)	教諭10名(小学校10名)、講師1名(小学校1名)、公立幼稚園教諭1名、公務員3名、企業3名、大学院進学1名

学校教育教員養成課程

活躍する卒業生の声



市川 莉子 さん
国語教育コース 2016年卒業

四日市市立中部西小学校
勤務

仕事の内容

授業、学級指導 など

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 高校生の時に、小学校の教員になることを志し、三重大学の教育学部に進学することを決めました。小学校の教員になることを考えたときに、どの教科を指導するにも、また、授業以外での子どもたちとの関りにも、言語が欠かせないものであり、大切なものだと感じました。様々な学習の基礎である国語について学びたいと思い、国語教育コースを選びました。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. 3年生の時の4週間の教育実習です。三重大学附属小学校でお世話になりました。附属小での実習は、三重大生ならではの経験だと思います。大勢の同期とともに実習生控室にいて、教材研究、指導案検討をした日々がとても懐かしいです。45分の授業のために何度も指導案を書き直し、指導教官の先生の指導を受けて授業に臨みました。正直、とてもしんどかった教育実習ですが、最終日には、「絶対小学校の教員になろう。」と思うことができました。今では、附属小で実習を受けることができたと誇りに思っています。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 小・中学校での教育実習や実践演習などの現場での学びがとても大きいです。4年間で、現場の先生方の授業をたくさん見せて頂きました。実習1日の終わりには必ず反省会があり、自分が見た授業の感想を出し合う中で、指導教官の先生からは、授業の組み立て方だけでなく、授業の見方、普段の子どもの見取りについてたくさん教えて頂きました。実際に、学校現場を目の当たりにして学ぶ機会がたくさんあったことが、今の自分の教育に対する見方・考え方に活きていると思います。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. 小学校の教員として働く今、子どもたちの成長をとても身近に感じることができ、とても充実した日々を過ごしています。今の私にとって、三重大学での4年間の学びはとても大きく、4年間で出会ったたくさんのなかま、先生方とのつながりはとても大切なものです。これから先、皆さんもたくさんの出会いがあると思います。新たな出会いが、自分を成長させてくれるとよい機会になるはずですよ。皆さんの人との出会いを大切に、自分の夢に向かって頑張ってください。



野田 敏輝 さん
社会科教育コース 2015年卒業
大学院(人文・社会) 2017年修了

三重県立尾鷲高等学校
勤務

仕事の内容

授業(地理歴史科)、進路指導、
部活動運営・指導

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 幼い頃から教員になるという夢を抱いており、高校生の時には地理に強く興味を持ったため、将来は高校で地理を教えたいと思うようになりました。社会科教育コースには地理学を専門的に学ぶことができると感じたので、目標に近づくための勉強・研究ができると思い志望しました。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. ゼミの地域調査です。季節に関係なく川や海に潜り、採水や流量観測といった調査を行ったことは、今でも鮮明に覚えています。また、外国や国内複数の地域に赴き、河川・井戸調査や町並みの観察をしたことも良き思い出であり、大きな糧となっています。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 講義で身につけた教材研究の方法や、附属学校・協力校における授業実践の経験が、実際の授業で大きく活かしています。また、地理のフィールドワークでは、座学のみでは得ることができない知識・技術を多く身につけることができ、それらの経験が、授業における活動や作業等の場面で大変役立っています。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. 学部・学科の選択は、今後の人生に大きく関わります。将来を見据えてしっかり考えてください。また、大学における学びはすべて、高校までの学習の上に成り立っています。志望校に合格するために、今、高校での授業を大切にしてください。皆さんのこの先の進路が充実したものになるよう、心から応援しています。



岡崎 こころ さん
理科教育コース 2015年卒業、
大学院(理数・生活) 2017年修了

亀山市立中部中学校
勤務

仕事の内容

学級担任、理科の教科担当、
陸上競技部顧問

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 中学生の時は、理科は好きでしたが、高校生の時に、理科の授業で、分からないところが多すぎて、苦手になりました。しかし、苦手なままで逃げ出したくなかったので、もう一度しっかり理科を学びたくて選びました。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. 大学2年生の時に、興味を持ち出したアリについての研究を続けてきたことです。アリの生態について知ることはもちろん、新型アリ飼育容器を開発して、学会発表やイベントに参加したことが思い出です。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 自分の得意な分野をほとんど学べたこと、実験の手順や方法など、細かい勉強ができるので、生徒に指導する際もわかりやすく伝えることができます。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. 私は、大学で勉強したことによって、苦手なものが職業につながり、興味がなかったことに興味を持つことができました。何が起るかわからないのが人生です。可能性に満ち溢れている高校生の皆さんも素敵な学びをしてみてください！



山口 智優 さん
美術教育コース 2013年卒業

三重県立名張高等学校
勤務

仕事の内容

授業(美術)

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 幼い頃より絵を描くことが好きで、小学校では図工クラブ、中高では美術部に所属していました。高校3年生のとき、美術に関係する進路に進みたいと考え、美術教育コースが候補に挙がりました。美術だけではなく、語学や心理、宗教など様々なことに興味があり、このコースを選びました。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. 4年生のときの卒業制作です。高校1年生のとき初めて触れた油絵の具で制作することに決めました。卒業制作として提出した作品は1年間かけて制作したものでしたが、高校から大学までずっと自分が夢中になって取り組んできたものを形にするという思いで懸命に取り組みました。自分の好きなことに集中して、専門分野として学ぶことができた4年間はとても充実していました。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 美術という教科は、学校に一人の教員しかいないことが多く、美術に関する受領指導は全て自分の責任となってきます。実技はもちろんですが、小論文、面接など様々な指導が必要で、そのときに、在学中に学んだ美術史の知識や実技の技能を幅広く学んだ経験が役立っているのを感じます。もちろん校内で美大や芸大に進学する生徒は多くありません。そのため専門分野以外の指導に関わることもあり、教育学部で学んだ知識が役立ちます。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. 私が教員という職を自分の進路の一つとして考え始めたのは4年生の夏頃で、本当に卒業ギリギリでした。卒業後の進路を悩んで考えることができたのは、在学中の様々な経験で進路の可能性が広がっていたからです。三重大学では、ドイツ語を医学部生に混じって学んだり、特別支援コース生とボランティアに参加したり、生物資源学部生とサマの解剖をしたり、美術館で子どもと一緒に作品鑑賞をしたり、金属工芸、陶芸、日本画など、専門分野でもそれ以外でも本当にたくさんの経験をさせて頂きました。自分に与えられたチャンスは迷わず活かすと、後々絶対に自分の役に立ちます。自分の可能性を広げるために、好奇心を忘れず何事にも挑戦してください。



矢戸 幹也 さん
保健体育コース 2005年卒業
大学院(保健体育専修) 2007年修了

三重大学
教育学部附属小学校
勤務

仕事の内容

授業、学級指導、
研究、教育実習生指導 など

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 「将来、運動やスポーツに携わる仕事をしたい。」これが保健体育コースを選択した理由の一つです。小さい頃から運動や遊びが好きで、それに携わる職業に就きたいと思っていました。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. やはり教育実習です。初めて「先生」として過ごした時期であり、人生で一番濃い一ヶ月でした。また、実習最終日に子どもからももらった手紙を読むと、「こんな些細なことまで覚えてるんだ。」ということが書いてあり、子どもの可能性を感じた瞬間でした。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 小学校授業を参観させていただいたり、アシスタントとして授業にかかわらせていただいたり、学校現場以外でも子どもとかわるボランティアに参加できたりして、実際の教育現場を体感できたことが大きな財産となりました。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. 「やらずに後悔するより、やってみよう。これは部活の先輩から言われた言葉です。「これでいいのかな。」「どうしよう。」といった悩みや不安もあると思いますが、勇気をもって一歩進むと見えてくる景色が変わると思います。



小林 慎 さん
特別支援教育コース 2011年卒業

三重県立
稲葉特別支援学校
勤務

仕事の内容

授業、学級指導 など

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 高校時代に、漠然と「福祉に携わる仕事をしたい」と考えていました。そして、私は障がいがある子どもたちとかかわったことがほとんどなかったので、勉強したいと思って選びました。教員になろうと思ったのは教育実習からでした。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. 特別支援教育コースの学生が運営している、「つくしんぼサークル」の活動がとても楽しく、充実していました。障がいがある方々といっしょに活動を楽しみながら、今の仕事につながる大切なことをたくさん学ぶことができました。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 専門的な障がいに関する知識に加え、障がいがある方の体験談を聞く機会がある等、様々な角度から障がいについて考えられたことです。特別支援学校で働く姿勢の基礎になっていると思います。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. 私は初め教員になるつもりはありませんでした。しかし、在学中の学びや出会いがきっかけになり、特別支援学校で働きたいと思いました。大学では人生を大きく変えるきっかけに溢れています。多くの選択肢を前に迷うことがあっても、興味のあることや好きなことを大切にしながら進んでいってください。



端崎 裕太郎 さん
技術・ものづくり教育コース 2014年卒業
大学院(理数・生活系) 2016年修了

鈴鹿市立大木中学校
勤務

仕事の内容

学級経営、授業、部活動指導、
学校ホームページ更新 など

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 私は恩師との出会いに恵まれたおかげで、中学生のときから教師になりたいと思う気持ちがありました。高校に入学した頃から自分の進路と向き合う中でその気持ちが膨らみ、教師を志して教育学部を受験すると決意を固めました。また、技術・ものづくり教育コースを選んだのは、就きたい職業に関する勉強をしながら、興味のある工学分野についても学べるところが「珍しいな」「面白いな」と感じたので志望コースに加えしました。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. 学部棟や技術教育棟で同期生だけでなく、同じコースの先輩や後輩と過ごした日々が一番の思い出です。毎日、同じコースの学生と課題をしながら授業について夜遅くまで語り合ったり、切磋琢磨して研究をしたり、採用試験に向けて勉強をした日々があるから今の自分があると思います。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 専門的な知識も教職の知識も実際に現場で活用してみても初めて自分の役に立ったように思います。講義を受けるだけでなく、現場で実践できる機会があったおかげで自信ができました。教師という職業は働き始めたその日からプロでいなければいけません。教育実習以外にも現場で実践する機会が多い教育学部では知識はもちろん現場での実践力も磨けたと実感しています。また、技術科の教師は腕で勝負しなければいけません。たくさんの製作実習を通して、人にみせる技能を習得することができました。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. たくさんの出会いを経験してたくさん悩んでください。私は、学部生の時に機械に関する研究に出会いました。教師になるか、一般企業に就職するか迷い、しっかりと勉強し自分を見つめなおすため大学院に進学しました。その中で自分としっかりと向き合い、私と出会うこともものづくりを楽しいと思う子どもを多く育てたいと思い、教師になることを決めました。それ以外にも授業や部活、アルバイト、ボランティアなど多くの場面でたくさんの出会いを経験しました。出会いは自分の選択肢や可能性を無限大に広げてくれると思います。みなさんも自分の可能性を広げ、大いに悩み、納得いく進路を選んでください。



細川 真子 さん
幼児教育コース 2016年卒業

磯津保育園 勤務

仕事の内容

クラス担当

Q.所属したコースを選んだ理由を教えてください。

A. 生まれ育った地元で学び、保育士として働きたいという思いから三重大学を希望しました。また幼児教育コースでは、少人数で保育について実践的な学びができるというところが魅力に感じました。

Q.大学での一番の思い出は何ですか？

A. 様々な保育現場に行かせていただき、豊かな保育実践を学べたことです。その中で自分も保育士として、こうありたいと思える尊敬する方々との出会いが1番の思い出であり、財産です。

Q.社会に出た今、教育学部で学んだ専門知識の強みは何ですか？

A. 幼児教育について深く学ぶことができたとともに、自分の選択次第で興味関心のある他分野の教育についても学ぶことができたことが、現場に出た上でも強みになっていると思います。

Q.高校生へのエールを一言お願いします。

A. 大学生活で出会うことができた恩師、素敵な人々、豊かな経験は、現場に出た今でも大きな支えになっています。皆さんにも充実した大学生活が待っていると思うので、自分の力を信じて頑張ってください。応援しています！



教育学部校舎



A 専門校舎1号館



B 専門校舎2号館



D 音楽棟



E 美術棟



① 教養教育校舎

全学部向けの教養教育が行われています。



② 図書館

90万冊を超える図書・雑誌を所蔵。オンラインジャーナルも充実し、学生の教育・研究活動を応援します。



③ 三翠ホール(講堂)

1650名を収容でき、入学式や学位授与式など全学的な式典・行事、全国的な学会や講演会が開催できる多目的ホールです。

三重大学周辺MAP



交通案内

徒歩

近鉄江戸橋駅から徒歩で15分

バス・タクシー

津駅前バスのりば「4番」から三交バス「白塚駅」「千里駅」「三重病院」「棕本」「豊が丘」「サイエンスシティ」「高田高校前」「三行」行きで「三重大学前」下車。
津駅からタクシーで約10分

電車

近鉄急行
名古屋 — 江戸橋 約60分

近鉄特急
名古屋 — 津 約50分
難波 — 津 約90分
京都 — 津 約120分

(津駅で急行または普通に乗換え)
津 — 江戸橋 約2分



その他

津エアポートライン(高速船)
中部国際空港(セントレア) — 津なぎさまち 40分

1. 三交バスで「津なぎさまち」から「津駅前」まで約15分、「津駅前」乗り換え「三重大学前」まで約10分
2. タクシーで津なぎさまちから津駅まで約10分、三重大学まで約15分

【表紙のタイトル】

希望

【コンセプト】

夢や希望をもって、このパンフレットをめくってくださっている皆さんをイメージして描きました。不安が耐えない世の中ですが、皆さん自身が、教職の世界を支える希望になってくれたら、卒業生として、それ以上に嬉しいことはありません。